



御殿場市中心市街地活性化基本計画

御殿場駅周辺地域まちづくりビジョン(案)

令和7年3月
御殿場市

目 次

I 策定にあたって

- 1 計画の基本事項……………P4
- 2 前計画の振り返り……………P6

II 駅周辺地域の現況と課題

- 1 駅周辺地域の特徴……………P10
- 2 住民や利用者の意向……………P13
- 3 これからの駅周辺地域のまちづくり
について考える……………P18
- 4 駅周辺地域の課題……………P23

III 計画の全体像

- 1 計画の体系……………P26

IV 計画の内容

- 1 目指すべきまちの姿……………P30
- 2 基本方針……………P32
- 3 基本施策……………P34
- 4 エリア別方針……………P42

V 計画の推進

- 1 まちづくりの基本姿勢……………P48
- 2 推進体制……………P49
- 3 進捗管理……………P50
- 4 今後の展開……………P51

I

策定にあたって

- 1 計画の基本事項
- 2 前計画の振り返り

I 策定にあたって

I では、計画の目的、計画期間及び計画区域を示した後、御殿場市の中心市街地であるJR御殿場駅周辺地域(以下「駅周辺地域」という。)において今まで実施してきたまちづくりをより良いものとするため、前計画を振り返ります。

1 計画の基本事項

(1)計画の目的

本計画は、アフターコロナ、加速度を増す少子高齢化、デジタル推進、国際交流の活発化等の社会情勢に順応しつつ、**駅周辺地域のまちづくりを総合的かつ一体的に推進する目的で、目指すべきまちの姿、まちづくりの基本方針・施策等を示すものです。**I で計画の基本事項及び前計画を振り返り、II で現況から見えてきた課題を示し、III以降でこれからのまちづくりの方向性を示します。

(2)計画期間

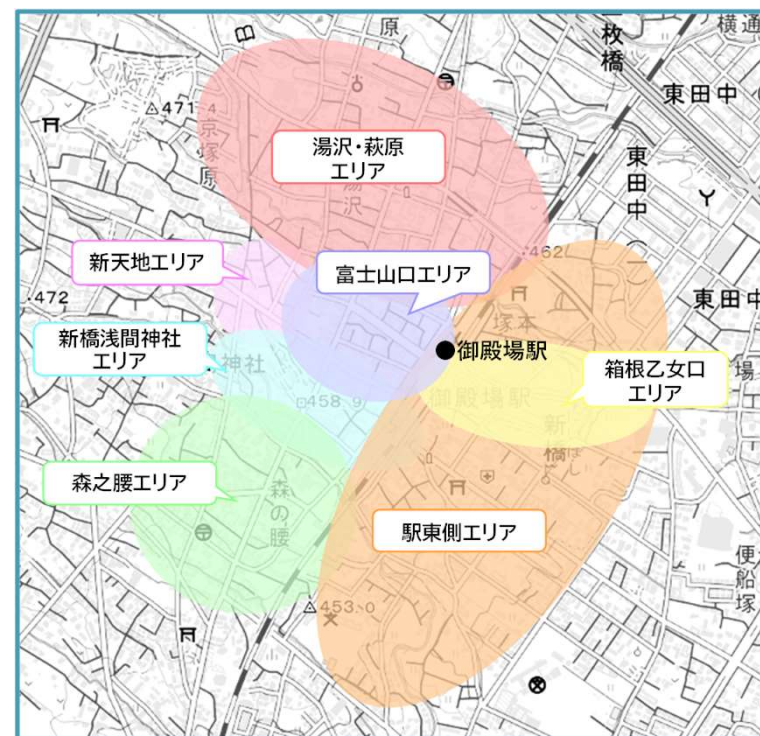
本計画は、持続可能な駅周辺地域のまちづくりを目指すために、**令和7年度(2025年度)から令和16年度(2034年度)の10年間**を計画期間とします。

また、進捗管理を毎年度実施し、中間年度である令和11年度に計画の見直しを実施する予定です。

(3)計画区域

本計画では、**JR御殿場駅を中心とした半径約500mの徒歩圏内を対象区域**としませんが、厳密な線引きを行わないものとし、今後、立地する施設や機能に応じて柔軟に対応できるものとします。

また、これまでの歴史の中で築かれてきたまちなみやコミュニティによって、駅周辺地域において特性が異なるエリアが存在していることから、本計画では当該エリアを7つ設定(厳密な区域設定なし)し、各エリアの特性を生かしたまちづくりの方向性を示すこととします。

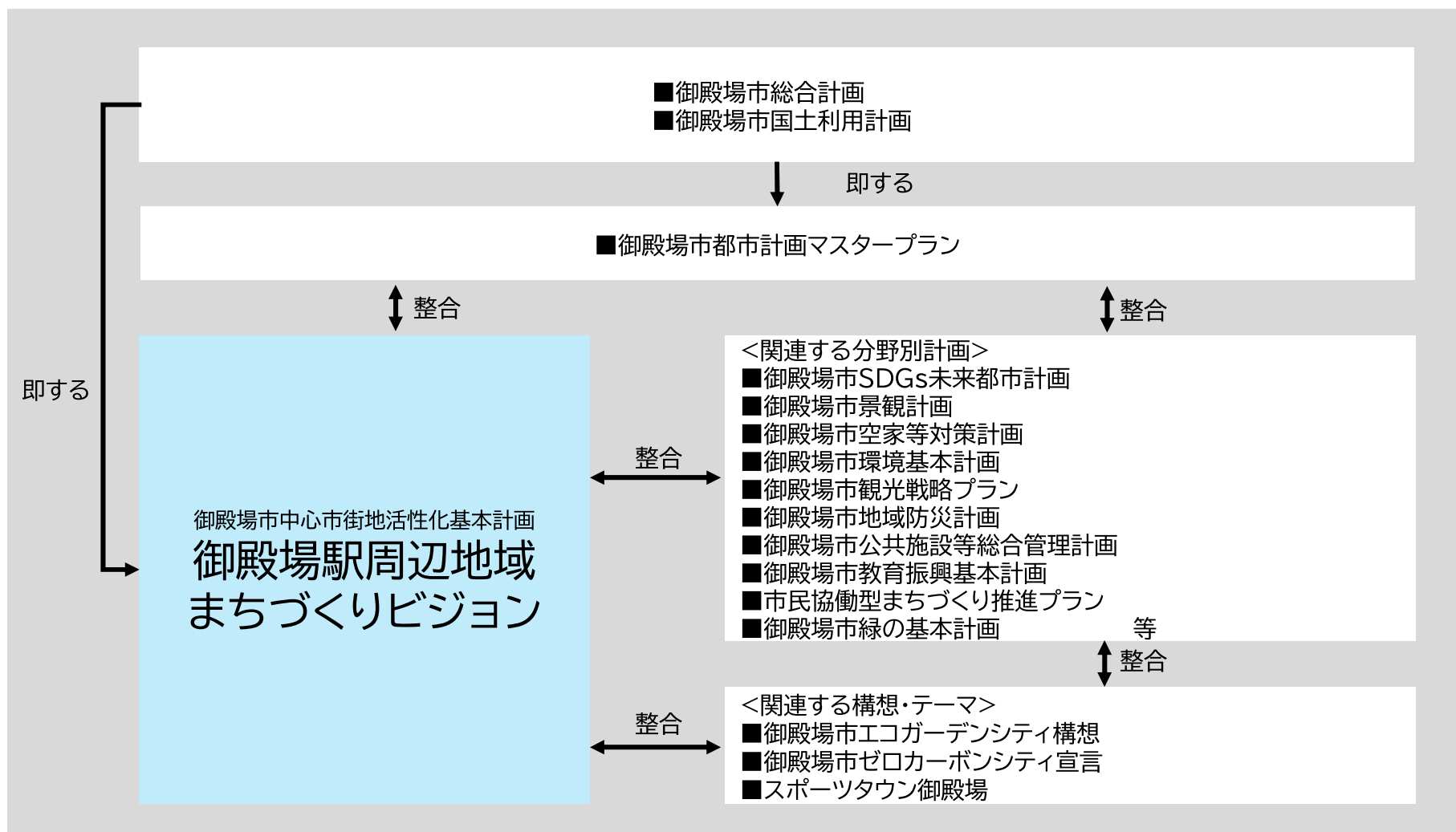


地図出典:電子地形図2024年10月(国土地理院)

(4)計画の位置づけ

本計画は、本市の最上位計画である御殿場市総合計画との整合性を図り、各分野における関連する計画や構想との連携を図りながら、駅周辺地域のまちづくりの指針として策定するものです。

また、上位・関連計画の見直しや更新に合わせて本計画も柔軟に見直し・更新するものとします。



2 前計画の振り返り

(1)前計画の概要

令和2年3月～令和7年3月までの計画期間において、駅周辺地域における都市機能の増進及び経済活力の向上を総合的かつ一体的に推進するため、平成18年に制定された「改正中心市街地活性化法」に基づき、下図の基本テーマ(将来像)を目指し、3つの方針のもと目標を設定。4つの分野からなる、94の事業を展開してきました。

【中心市街地活性化の基本テーマ】

**富士山のふもと、誰もが楽しめるまち・ごてんば
～富士山の集う多様な来街者をもてなす趣向のあるまち～**

富士山の玄関口である御殿場駅を最大限に活かし、商業機能の集積と生活のための利便性の向上を図り、安全・安心で快適な市街地空間の形成を図る。また、御殿場の風土・文化を活かした趣向ある取組によって、「市民や観光客」「子育て世代や高齢者、障がい者」等、多様な来街者をもてなし、足腰の強い地域経済を創出する。

【中心市街地活性化の基本的な方針・目標・指標】

方針1 誰もが買い物や食事を楽しめる中心市街地 生活に身近な商業に重点を置くとともに、観光に対応した商業も含めた導入の促進	目標1 多様な来街者の消費ニーズを満たすまちをつくる ・商業施設の立地促進 ・観光商業を含めた施設の整備	数値目標1 ■小売業事業所数 73事業所(R1年度推計現状値) ⇒73事業所数(R6目標値) ■宿泊業・飲食サービス事業所数 195事業所(R1年度推計現状値) ⇒195事業所数(目標値)
方針2 誰もが居心地の良さを楽しめる中心市街地 誰もが生活しやすく、居心地よく交流できる場の創出、及び街なかに住する人口の維持・増加	目標2 誰もが居心地の良い、住みたくなるまちをつくる ・世代間交流の促進、障がい者等にも配慮した複合施設の整備 ・都市型住宅の供給促進	数値目標2 ■複合施設利用者数(新設) 38,23千人(R5～R6年度の2年間の目標値) ■中心市街地居住人口 5,941人(R1年度推計現状値) ⇒5,941人(目標値)
方針3 誰もがまち歩きを楽しめる中心市街地 駅へのアクセス性向上や連続性ある歩行空間の確保、イベントの開催等によるにぎわいの創出	目標3 誰もが楽しく回遊できるまちをつくる ・歩行空間創出とバリアフリー化 ・公共交通機関によるアクセス性向上 ・各種イベントの開催促進 等	数値目標3 ■中心市街地内歩行者交通量 5,188人(R1年度:実測現状値) ⇒5,380人(目標値)

【中心市街地活性化のための事業】

4つの分野からなる計94の事業を展開

1. 市街地の整備・改善のための事業
 道路整備事業、バリアフリー事業、自転車環境整備事業等

2. 都市福祉施設の整備のための事業
 複合施設整備事業、駅前サービスセンター、高齢者支援事業等

3. 街なか居住の推進のための事業
 高齢者等タクシー及びバス利用料金助成、移住・就業支援、防犯対策、住宅改造費助成、高齢者見守りネットワーク等支援事業等

4. 経済向上のための事業
 商業支援、イベント実施、プロモーション等、街なか商業観光の活性化・にぎわい創出に資する事業

(2)数値目標の検証

各方針の数値目標においては、中心市街地の居住人口の目標数値は達成しました。一方で、現在の統計データでは収集できなかったり、施設移転等に伴い、測定方法の再設定が必要なものもあります。

数値目標1

■小売業事業所数

現在の国の統計データでは情報収集ができなくなっている。目標設定の見直しが必要。

■宿泊業・飲食サービス事業所数

現在の国の統計データでは情報収集ができなくなっている。目標設定の見直しが必要。

数値目標2

■複合施設利用者数(新設)

けやき館の利用者数を設定しているが、目標2を実現するための指標設定として指標の再検討が必要。

■中心市街地居住人口

令和6年度は6,003人と人口は増加し、数値目標を達成。

数値目標3

■中心市街地内歩行者交通量

歩行者交通量調査は、前計画策定時と調査地点・方法が変わっており、同じ設定での検証ができなくなっている。また、目標3の「楽しく周遊できるまちをつくる」に対して交通量のみで評価すべきかどうか含め、目標設定の見直しが必要。

(3)前計画の事業(施策)の実施状況及び課題

事業は、下図の通り、94ある事業のうち、完了したものや着手中のもの等様々であり、事業の着手が中心市街地の目標に寄与できているか見えずらい構成となっています。新計画においては、前述の数値目標と事業(施策)が連動し、継続的にモニタリング可能な指標を設定するとともに、着手中の道路整備等を着実に完了させ、住民等の意向に応じ、まちの質が向上するような施策の充実が必要です。

1. 市街地の整備・改善のための事業

- 2事業完了、11事業着手中、2事業未着手。
- 道路整備は地権者合意形成含め着実に取り組んでいる状況。
- 自転車環境は新計画の市民アンケートでも充実化の要望が強い。



新計画でも着実に整備を実施し、環境改善を図ることが必要。

2. 都市福祉施設の整備のための事業

- 3事業完了、4事業着手。
- ハード整備については事業完了。
- 補助事業のハードルの高さ、相談件数の減少から見直しが必要。



新計画では住民等の意向に合った事業となるよう施策を展開することが必要。

3. 街なか居住の推進のための事業

- 全事業着手中。
- 新計画の市民アンケートで、当該事業に関連する“まちなみ景観”“治安”“安心して歩ける”ことに関するニーズが高い。また、駅周辺地域への取組では“空き店舗空き家の有効活用”の回答が最も多く、要望に応えられる事業の組み立て・充実化が求められる。



新計画では利用者の意向に合い、魅力や満足度が高まる事業になるように施策を充実化することが必要。

4. 経済向上のための事業

- 11事業完了、1事業廃止、他着手中。
- 各事業が商業観光の誘客に繋がっているのか、生業とする商店・事業者の満足度や課題に対応できているか検証が必要。



多様なターゲットに応じた魅力ある取組が必要。
事業を担う団体・個人との連携（市民協働）により、取組を強化していくことが必要。

■ 昔の駅周辺地域の姿(1982年～1983年当時の写真)



II

駅周辺地域の現況と課題

- 1 駅周辺地域の特徴
- 2 住民や利用者の意向
- 3 これからの駅周辺地域のまちづくりについて考える
- 4 駅周辺地域の課題

Ⅱ 駅周辺地域の現況と課題

駅周辺地域のまちづくりにおける効果的な施策を検討するため、駅周辺地域の現況及び市民等の意向を把握する調査、会議、社会実験等を実施しました。Ⅱでは、この調査等から見えてくる駅周辺地域の課題について示します。

1 駅周辺地域の特徴

(1)人口の動向

居住人口は約6,000人を維持

御殿場市の人口は減少傾向であり、今後も減少が想定される中、駅周辺地域の人口は、近年約6,000人を維持し、令和6年3月時点では、6,003人と平成27年時を上回っています。

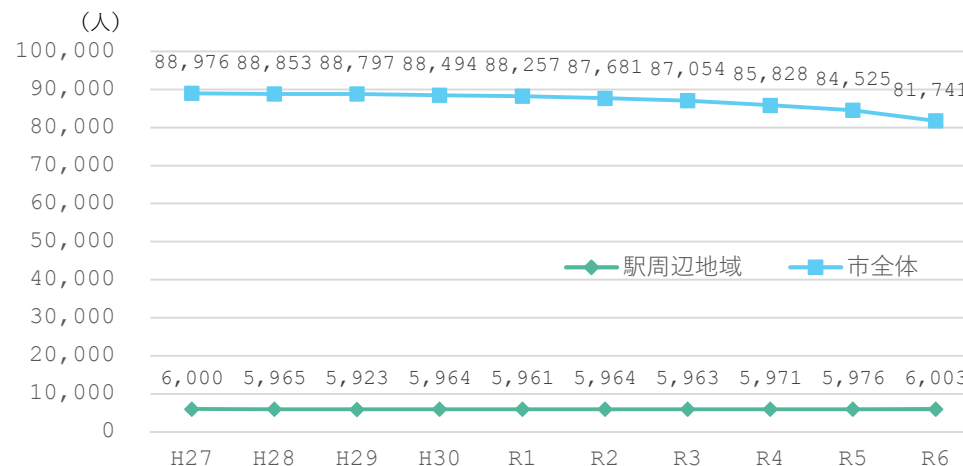
(2)JR御殿場駅利用の動向

1日約4,000人の利用者

JR御殿場線御殿場駅の1日平均乗車人員は、令和元年まで増加傾向でしたが、新型コロナウイルスの影響で令和2年に大幅に減少しました。

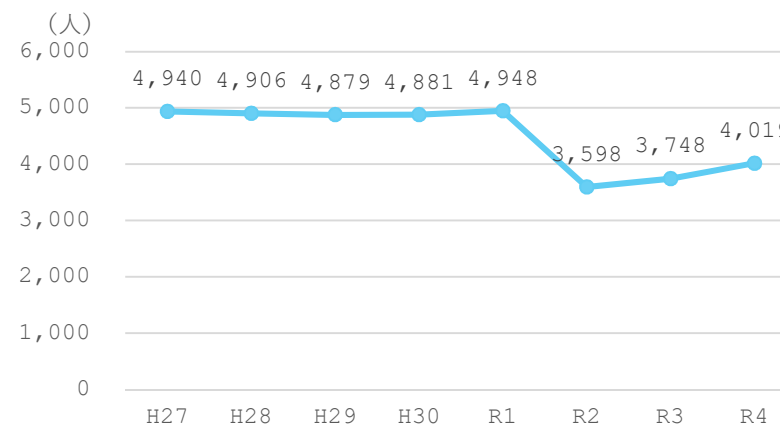
しかし、現在では回復傾向にあり、令和4年には約4,000人の利用まで増加しています。

駅周辺の居住人口の推移



出典:御殿場市住民基本台帳

JR御殿場駅1日平均乗車人員の推移



出典:静岡県統計年鑑

(3) 駅周辺地域の特性

更なる展開の可能性がある地域

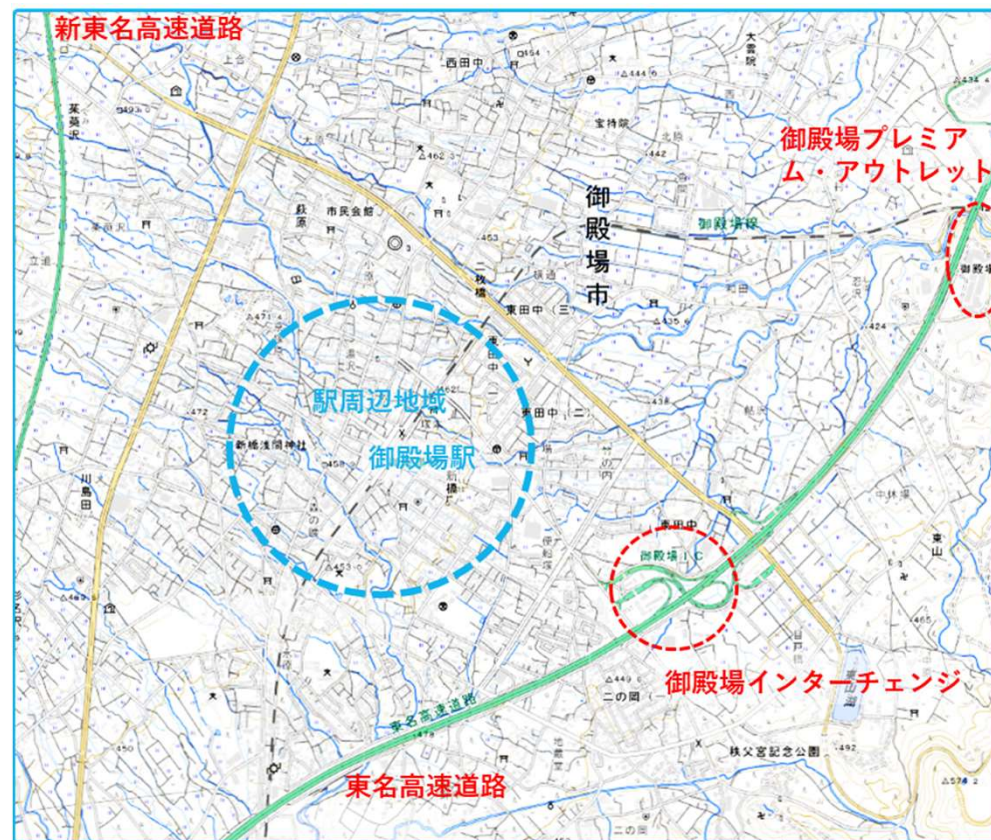
JR御殿場駅は、富士山と箱根山を望み、電車、タクシー、周辺商業・観光・宿泊施設への送迎バス、東京・箱根に繋がる高速バス、富士山・河口湖に繋がる路線バス等、公共交通の拠点として重要な機能を有しています。また、日本最大級のショッピングリゾート「御殿場プレミアム・アウトレット」等、通勤通学の利用だけでなく、観光客の利用も多く見られます。

駅周辺地域の道路環境としては、国道138号、国道246号、東名高速道路御殿場インターチェンジ及び新東名高速道路新御殿場インターチェンジといった大動脈ともアクセスが良く、都市計画道路の整備、バリアフリー化等による道路環境の改善と安全な歩行空間の確保が着実に進められています。

民間の開発については、新たなマンション、アパートの建設、宅地分譲等が進んでいます。

教育施設については、隣接地域にも立地しており、学生等が通学等で利用、滞在する場所として機能しています。今後、市立図書館の移設、県立高等学校の再編の動きがあり、人流の変化に対応する必要があります。

以上により、駅周辺地域は居住者、来街者に対する施策、取組次第で、更なる発展や価値を高められる地域です。

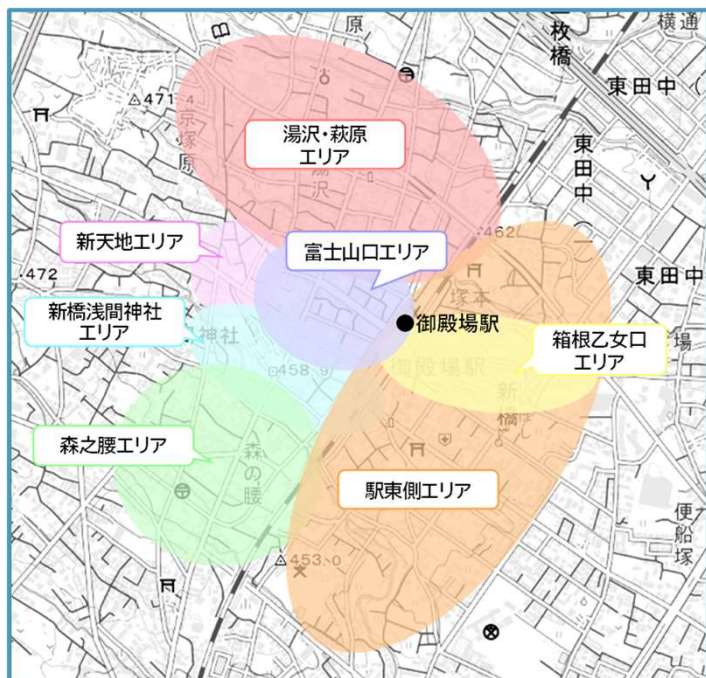


地図出典：電子地形図2024年10月(国土地理院)

(4)エリアの特性

駅周辺地域は主要施設及び商店街の立地、文化的な背景等から次のようなエリアの特性が見られます。

本計画では各エリアの強みを生かしたまちづくりの推進を図ります。



地図出典：電子地形図2024年10月(国土地理院)

エリア	エリアの特性
湯沢・萩原 エリア	✓ 小中規模の店舗が立地する商店街をメインに東田中・萩原エリアに店舗や保育園等が点在するとともに、住環境も集中している。 ✓ 空き店舗が増加している一方で、近年新たな出店も見られる。 ✓ 車の通が多い。
新橋浅間神社 エリア	✓ 歴史的資源や緑ある空間を有する由緒ある新橋浅間神社がある。 ✓ 神社には富士山からの湧き水である「木の花名水」が湧いており、市内だけでなく市外からも湧水を汲みに来る。 ✓ 富士山市民のサロンけやきかん、新橋コミュニティ供用施設、木の花会館等の公共施設が立地している。
森之腰エリア	✓ 商店街組合、まちづくり会社があり、店舗、飲食店が集積している。 ✓ エピ・スクエアが立地し、スーパーやエフエム御殿場、会議室等市民の利用する拠点としての機能を有している。 ✓ 車の通りが多く、道路両サイドに店舗や駐車場が立地している。
富士山口 エリア	✓ 繁華街であり、歴史のある店と新規出店のお店が混在している。 ✓ ホテルが立地しており、多くの宿泊客がいる。 ✓ 観光客は多く見られるが、日中に開いているお店が少なく、滞在する場所が少ない。 ✓ 市内各所、富士山、河口湖方面の路線バスターミナルがあり、公共交通の拠点となっている。 ✓ 自転車等駐輪場があり、自転車等利用者の交通結節点となっている。
箱根乙女口 エリア	✓ 高速バス及びシャトルバスターミナルがあり、新宿駅利用者、御殿場プレミアム・アウトレット利用者、インバウンド客等の利用がある。 ✓ 御殿場市観光協会が立地し、観光客への情報発信等の窓口として機能している。 ✓ 居酒屋等の店舗が点在している。 ✓ 新たなホテルがオープンする等、宿泊客の利用も多い。
駅東側エリア	✓ 国道138号、都市計画道路新橋深沢線等の主要道路が通り、自動車交通量が多い。 ✓ 道沿いにチェーン店、飲食店が多く立地し、その周辺に住宅が立地している。 ✓ 北側は店舗が集積し、南側は病院や高等学校等が立地し、市民の利用が多い。
新天地エリア	✓ 昔から夜の歓楽街として賑わっており、日中、営業しているお店はほとんどない。 ✓ 昭和レトロな景観である。 ✓ 近年、更地が増えている。 ✓ 住宅・共同住宅が混在し、住環境も有している。

2 住民や利用者の意向

駅周辺地域のニーズを把握するため、令和5年度に市民アンケート、御殿場駅利用者アンケートを実施しました。うち特徴的な結果を掲載します。

【実施調査概要】

【市民アンケート】

調査期間: 令和5年10月～11月
調査対象: 御殿場市に居住する18歳以上男女から下記内訳で無作為抽出
調査数: 2,000人(駅周辺地域在住1000人、駅周辺地域外在住1000人)
調査方法: 調査票(紙)による郵送
回収結果: 676人(うち駅周辺地域在住293人、駅周辺地域外在住376人、居住地不明6人)

【御殿場駅利用者アンケート】

調査期間: 令和6年2月1日、3日、5日
調査対象: 調査日に御殿場駅を降りた駅利用者(来街者)
調査場所: 富士山口広場、箱根乙女口広場
調査方法: 聞き取り調査
回収結果: 216人

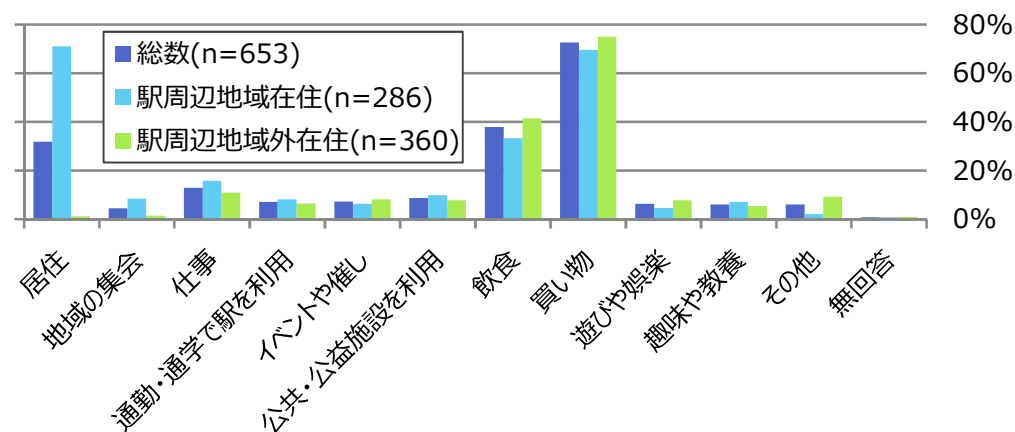
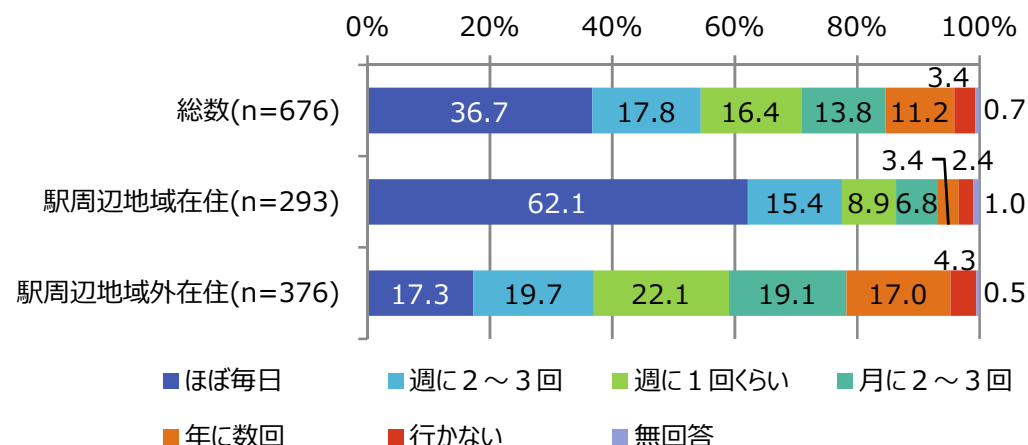
(1) 住民の利用状況や認識(市民アンケートより)

駅周辺地域の利用は“週に2～3日”以上が約半数

利用頻度をみると、全体では“ほぼ毎日”と“週に2～3日”で50%以上となっています。駅周辺地域に住む人は“ほぼ毎日”が約60%を占めており、一方そうでない人は“週に1回くらい”が約20%と最も多い状況です。

利用目的は“買い物”“飲食”がほとんど

利用目的別にみると、“買い物”次いで“飲食”が多くなっています。駅周辺地域に住む人、そうでない人ともに、地域の集会を除き、利用目的は概ね同じといえます。



滞在時間は“30分～1時間”以内が約半数

滞在時間は“30分～1時間”が約30%と最も多く、次いで“30分以内”が約22%となっています。

買い物や飲食による短期的な滞在利用が多くを占めていると考えられます。

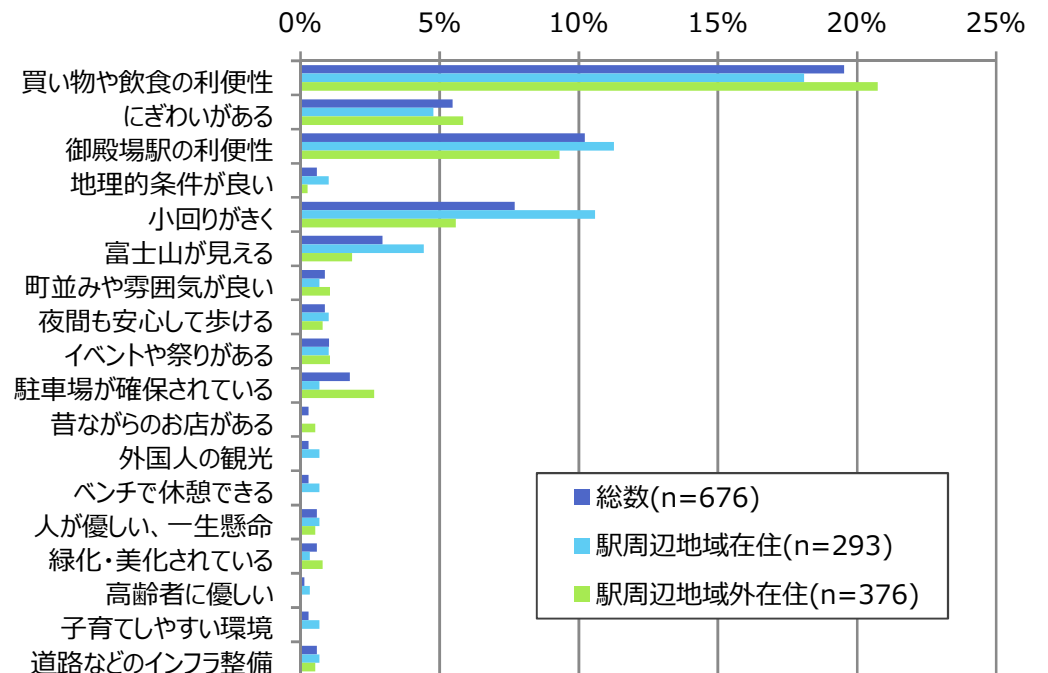
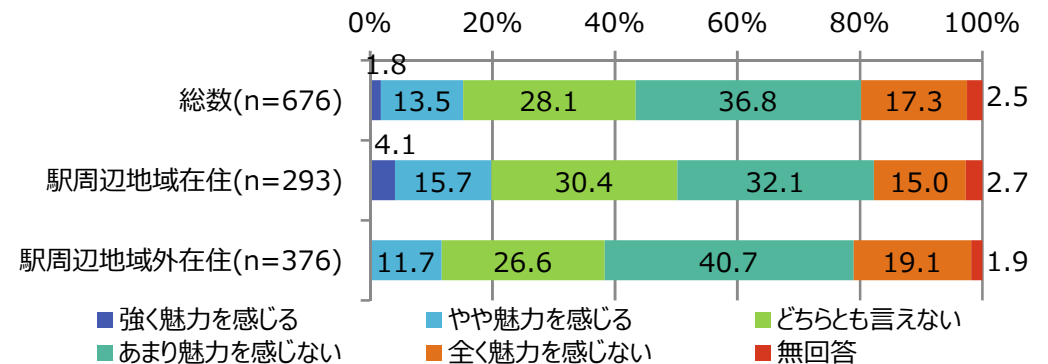
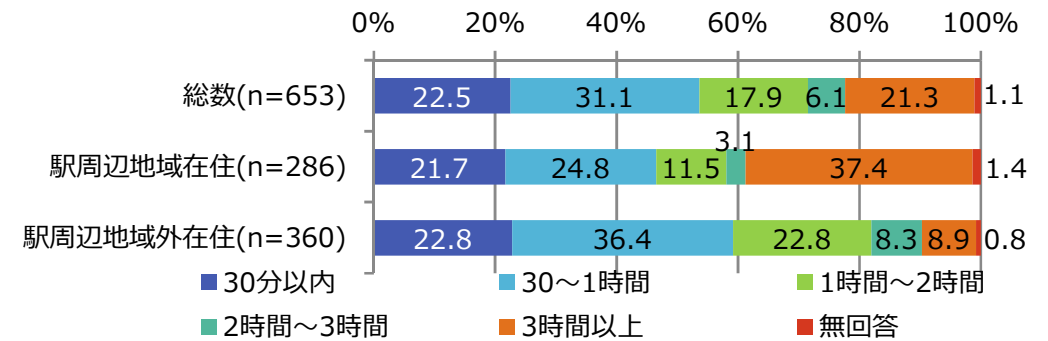
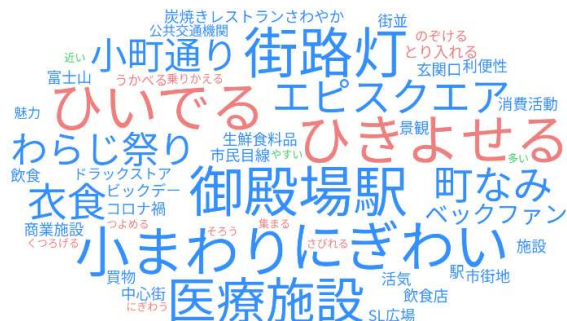
駅周辺地域の“魅力を感じない”が半数以上

駅周辺地域について“強く魅力を感じる”と回答した人はわずか1.8%。“魅力を感じない”(あまり魅力を感じない、全く魅力を感じないの合計)を回答した人は全体で約53%という状況です。

駅ならではの利便性が強み

駅周辺地域の魅力について聞くと、“買い物や飲食の利便性”が最も多く、次いで、“駅の利便性”、“小回りがきく”、“にぎわいがある”等があげられます。一方、子育てのしやすさや高齢者にやさしい、街並みや雰囲気等、各ターゲットやテーマにおける空間や質に関しては魅力とは言われない状況です。

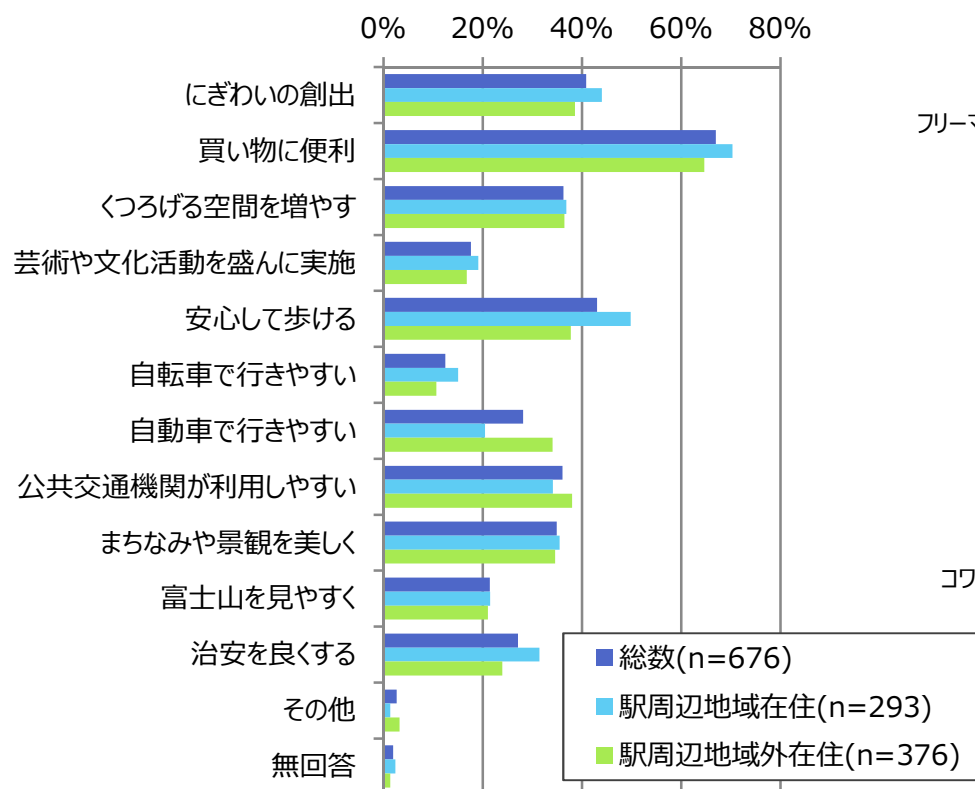
<参考:魅力に関する自由回答(テキストマイニング)>



(2)市民からの駅周辺地域への要望(市民アンケートより)

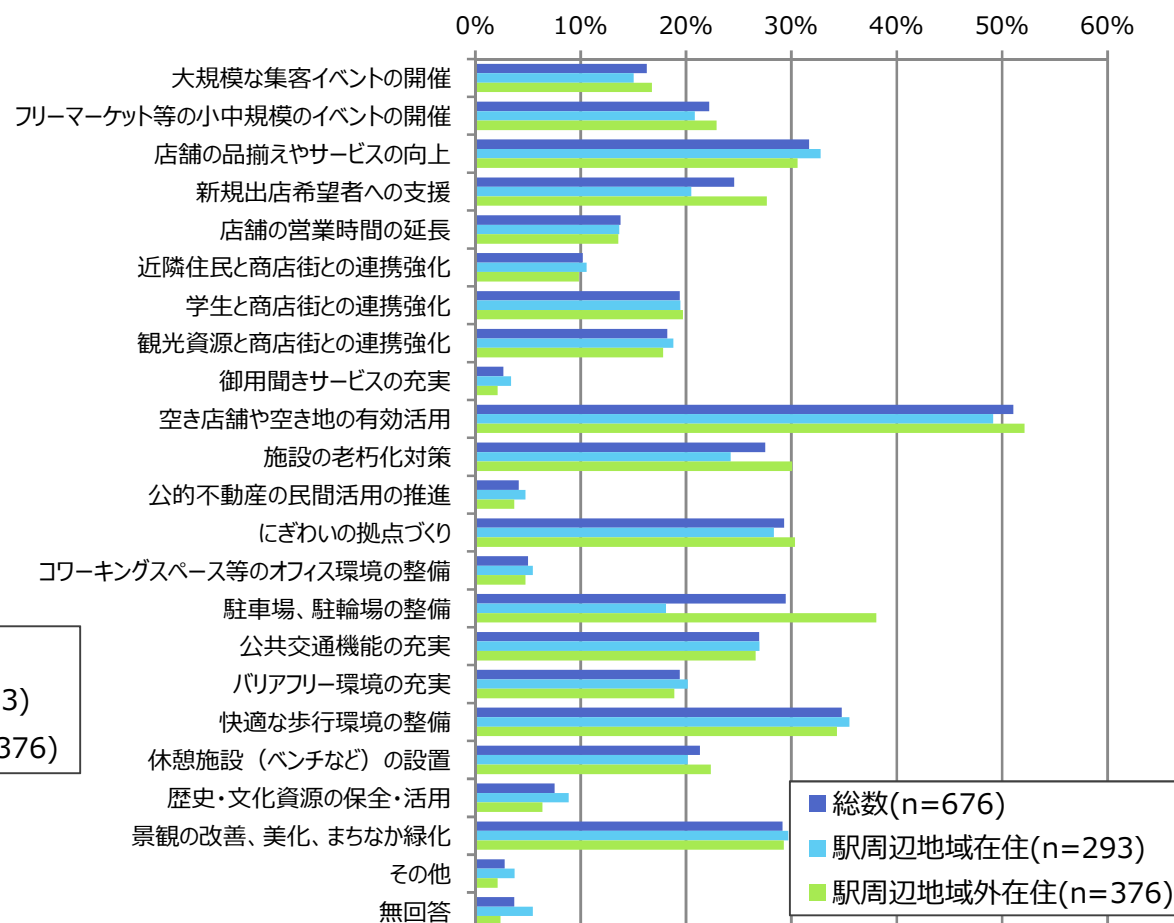
安心して滞在できる居心地のよい環境を

今後の駅周辺地域の目指すべき点について“買い物に便利”が67%で最も多く、次いで“安心して歩ける”が43%、“にぎわいの創出”が40%、“くつろげる空間を増やす”が36%となり、居心地の良い空間づくりや質の向上が求められています。



魅力的な環境形成とストックの有効活用が優先課題

今後の駅周辺地域に必要な取組について、“空き店舗や空き地の有効活用”が51%と最も多く、次いで“快適な歩行環境の整備”、“店舗の品揃えやサービスの向上”、“にぎわいの拠点づくり”、“景観の改善、美化、まちなか緑化”等があげられます。いずれも魅力を高めるための取組と空き店舗や空き家等の問題を解決する策を合わせて講ずることが求められます。

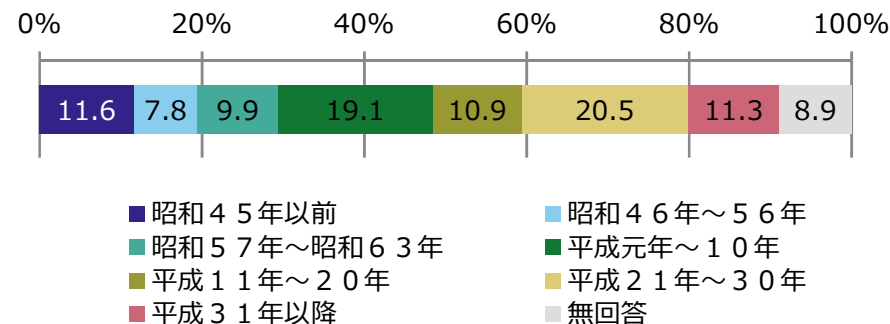


(3)住居に関すること(市民アンケートより駅周辺地域居住者の回答)

新耐震以前の住宅が20%ある

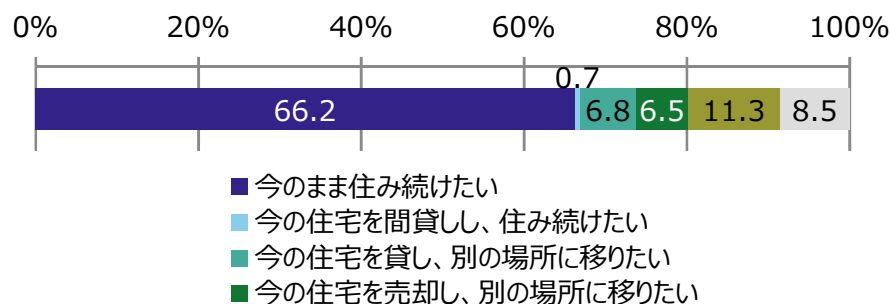
新耐震基準に該当しない、昭和56年以前の住宅に住む人が約20%と回答しており、駅周辺地域でも昔の家が残っている状況です。

※耐震化をしているかどうかについては本調査では不明



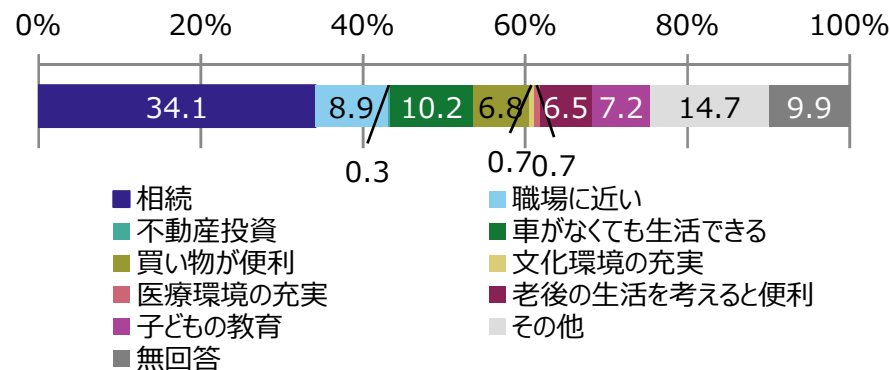
そのまま住み続けたいが半数以上

将来の暮らし方について、“そのまま住み続けたい”が約66%と最も多く、“貸す又は売却し、別の場所に移りたい”と回答した人が14%を占めます。一定の割合の住民が駅周辺地域から転出したい意向がみられます。



相続による住宅の取得が多い

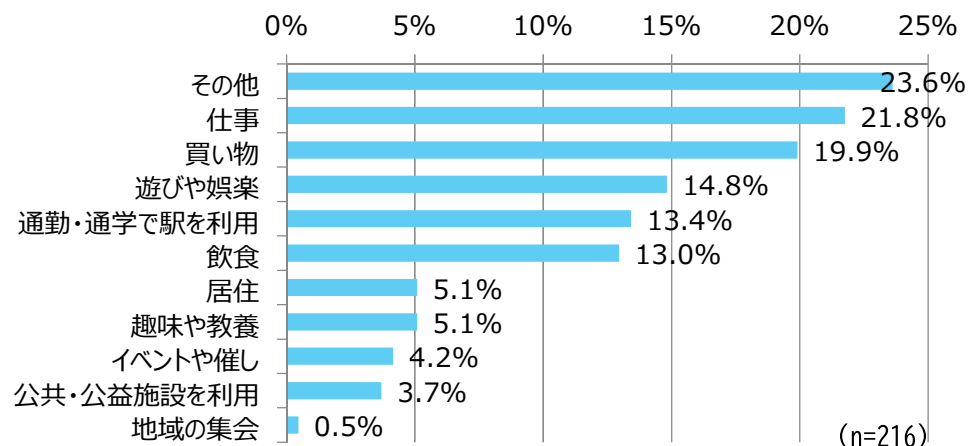
現在の住宅を取得した理由について、34%が“相続”と回答。他、“車がなくても生活できる”、“子どもの教育”、“医療環境の充実”等、生活環境の利便性を目的に、各々取得されているとみられます。上記の通り、古い建物や相続で引き継いだ家が一定の割合を占める中、今後売却できず空き家として残る懸念も考えられます。



(4) JR御殿場駅利用者の意見(御殿場駅利用者アンケートより)

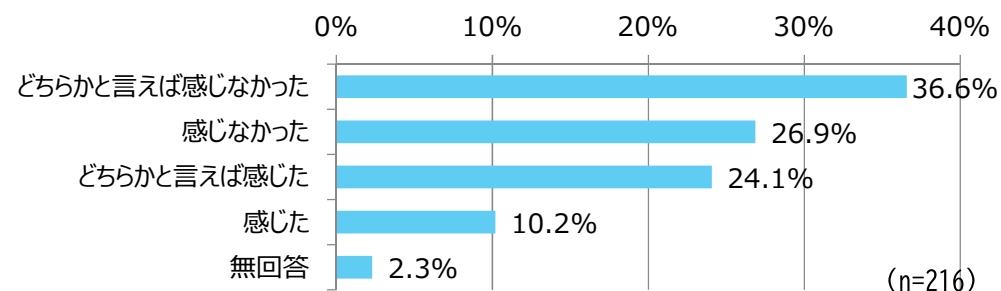
仕事や買い物利用の割合が多い

御殿場駅利用目的として、“仕事”が約21%と最も多く、次いで“買い物”、“遊びや娯楽”等となっています。



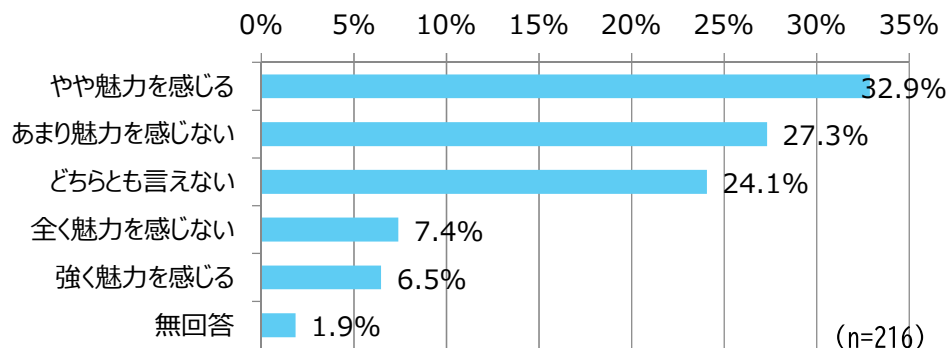
“にぎわい”や“活気”を感じないが半数以上

「にぎわい」や「活気」を感じたかという質問に対し、“どちらとも言えば感じなかった”、“感じなかった”と回答した人が合わせて約63%を占めています。



“魅力”を感じられる人が少ない

駅周辺地域について“全く魅力を感じない”、“あまり魅力を感じない”、“どちらとも言えない”が約58%を占めています。“強く魅力を感じる”人は約6%という状況です。

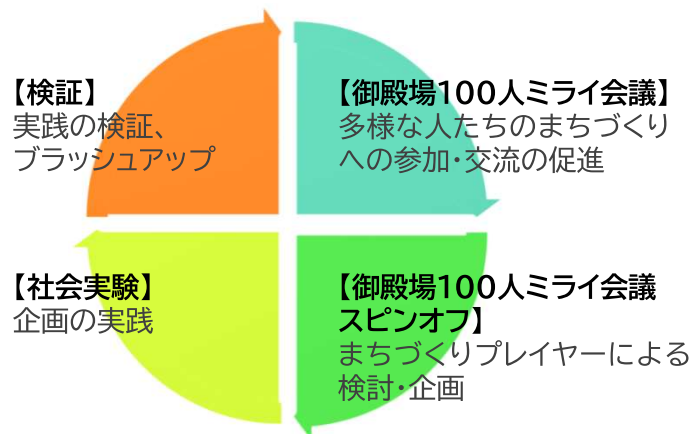


3 これからの駅周辺地域のまちづくりについて考える

前計画の振り返りや駅周辺地域の現況より、これからの駅周辺地域のまちづくりには、より多くの市民等に意見を伺いながら、前計画から積み残している課題解決をするとともに、誰もが共通に認識できる目標(目指すべきまちの姿)に向けて事業を推進していくことが大切であると考えました。

そこで、本計画策定にあたっては、住民、駅周辺地域のまちづくりに興味のある方又は既に活動されている方(以下「まちづくりプレイヤー」という。)から多くの意見を伺いながら、これからの駅周辺地域のまちづくりについて考え、実践する場を創ってきました。その具体的な取組について紹介します。

■本節の取組の全体像



本計画における現況・課題把握や基本方針・基本施策・エリア別方針への反映に活かす

まちづくり活動が推進できる環境・素地をつくる
(例:地域交流拠点「きよてんば」の開設)

(1) 御殿場100人ミライ会議の開催

駅周辺地域のまちづくりにおいて、多様な人たちの参加・交流を促す目的で、令和5年12月と令和6年7月に「御殿場100人ミライ会議」を開催しました。各会議90名程の住民やまちづくりプレイヤーにご参加いただき、駅周辺地域のまちづくりに関する課題、必要な取組、方向性等について意見を出していただきました。その意見について、次のページで紹介します。



令和5年12月開催時の様子

テーマ	テーマで出てきた意見
①学校教育	地域と子どもが繋がる場所をつくること、駅前で子どもが集まれる場所、日本のどこにもない面白い学校をつくりたい、そのための社会科見学×地域のプログラムや、ITデジタルの活用、先生のマインドを高める仕掛
②子どもの居場所	子どもが自由に過ごせる場所、子どもだけで外で遊べる場所、子どもたち向けのイベント、ゲーム大会、駄菓子屋、けやきかんの活用を考えたい、まちの公園を活用したスポーツができる場所、子ども商店街の企画
③働く人・学生の居場所	若い人たちが御殿場駅前を好きになるような場所づくり、学生が企画できる場、オープンな自習スペース、若い人と地域の方が繋がる場、地元で働きたい人の情報拠点、サテライトの大学を誘致することも考えたい
④観光	コト消費を誘発する仕掛けが必要、富士山景観を生かすこと、水（川）が見えるまちづくり、肉やお酒を少しでも楽しめる、食べ歩き、昼間の飲食も増やしたい、観光客が歴史文化を感じられる仕掛け、駅前でのウェルカムイベント、新たな映画館を核とした文化的企画、地域のガイドさんの活用
⑤インバウンド	新天地への誘客、キャバレーの活用、着物等の日本文化に触れる体験、富士山のふもとでの季節野菜、お茶どころの活用、あえて古い雰囲気を生かすことを考える、商店街をランウェイとしたファッションショー、映画館等でターゲットを絞った誘客、SNS・多言語化対応、発信力の強化が重要
⑥スポーツ・健康	駅前でスポーツのできる場づくり、障がい者も利用できるスポーツの場所、武道の聖地としての施設検討、高地トレーニングの入口となる駅前の利用、ウォーキングの推進、自転車の呼び込み、精神的な健康のフォロー、孤立・心のケア、高齢者の居場所も必要、ストレス・悩みを抱える方が相談しあえる場所も必要
⑦医療・介護	高齢者の集いの場があっても良い、630問題（救急受入困難対策）、病院へのアクセス充実（高齢者・障がい者等）が欲しい、駅前で悩みを話す場所、医者が家族と一緒に住みやすい環境、オンライン診療の充実、個人の意識を変える未病対策、富士山の価値を生かすメディカルツーリズムも考えたい
⑧交通	中心街の駐車場不足対策、エリアでの巡回バスの充実、郊外部から駅前への交通手段の充実、地元の子どもたちが使いやすいバス、交通弱者へのフォローが必要、アウトレットからの誘客、自動運転バス等技術導入、鉄道の利便性向上

テーマ	テーマで出てきた意見
⑨文化・芸術・歴史	食文化（コシヒカリ等）、音楽・ダンスイベント、映画文化、アーティスト・作家・パフォーマーとの接点、アートに触れる機会づくり、空き店舗でのアーティストレジデンス、ワークショップができるクラフト店舗を考える、歴史文化財・神社等の保全活用、甲冑や着物での体験、黒澤明がいたまちとして発信
⑩自然環境・景観	富士山の見える景観づくりをルール化、緑ある空間、各家に花を植えて周遊できる、富士山の水、多い湧き水を感じる空間づくり、生態系を体験できるビオトープ、暗渠の蓋を取って水の見える空間、公園の充実
⑪不動産	貸したい人借りたい人のマッチング、元気な駅前を発信、老朽化物件の取り壊しの促進、物件情報収集、リノベ補助制度、オーナー研修を考える、要所に人が集まれる施設を持つこと、空き店舗を活用して子ども・大人のそれぞれが利用できる施設づくり、チャレンジショップの仕組みづくり
⑫公共空間	公園に行く理由をつくること、子どもに安全な公共空間・歩道の整備が必要、イベントしやすい仕組み・場所の整備、歩行者天国、ストリートピアノ、ベンチが設置、イベントの定期開催、大きなイベントの実施、公共空間活用のわかりやすい窓口
⑬商業・産業	若者をアウトレットから引き込む仕掛け、素敵なお店を続け・増やすこと、バスを降りて駅前を歩くことができる空間づくり、歩いてわくわくする空間づくり、箱根乙女口、富士山口の役割分担、夜のにぎわいに対しての日中の利便向上、にぎわいづくり、歩く必要がある人（働く人）を呼び込むこと、新しい商売をしたい方が出店できるスタートアップの支援の仕組み、大学サテライトやギャラリー、消費者教育により商品の価値を理解してもらう努力
⑭住まい	建物耐震等防災への対応、土地の細分化を止める、良好な景観づくり等住環境の維持、テレワークできる場、古い家屋の補助、住み心地よい景観、昼間の雰囲気づくり、高齢者の一人暮らしへのフォロー、空き家のマッチングができる仕組み、家賃が高いことへの対策
⑮自由テーマ	ライブ、フェス等ができる環境づくり、ベンチと自然を増やす、ふらっと立ち寄れる場所の創出、福祉をテーマにしたショッピングモール

(2) 御殿場100人ミライ会議スピノフ

駅周辺地域の活性化を目指し、数多くのまちづくりプレイヤーに自主的・自立的な取組を推進していただく目的で、試行的に「スピノフ」と称した企画会議を令和6年1月から11月まで毎月開催しました。

各回30名程度の参加があり、御殿場100人ミライ会議で出た意見から、各参加者が関心のある社会課題について、プロジェクトチームを結成し、課題解決に向けた企画から実現までを実践してきました。

各プロジェクトチームには市でファシリテーター(進行役・相談役)を配置し、実践までの伴走支援を実施しました。ここでは、スピノフの参加者(まちづくりプレイヤー)が実践した取組の一部を紹介します。

■取組例

「駅前全開!!プロジェクト」

御殿場駅周辺は夜の居酒屋・お店等が多いが、昼に開いているお店が少ないことから、昼にシャッターを開けていただき、利用できる場所を創出していくプロジェクトです。夜のお店を昼に開けてもらう方法、商店街に人が周遊する仕組み等についてアイデアを出し合い、実際にイベントを実施しました。

御殿場駅周辺の まちなか現状と課題

- 昼間に気軽に行ける場所がない
- 商店街のお店に行く機会が少ない
- 小さい子と行けるお店がどこにあるのか分からない
- 駅周辺地域で遊べる場所やくつろげる場所が少ない 等



親子が安心して過ごせる場、子どもが楽しめる場、多様な世代の情報が行き交う場を作り、お昼でも集まれる場所をつくりたい



第1アクション!

昼間に閉まっている
お店の活用や昼間に
楽しめる場の創出!



<社会実験の取組>

○各店舗へのアンケートと説明会
店舗のスペースを

一部貸してくれる店舗 約27%

開催時に商品の提供・販売に

協力できる店舗 約35%

○イベント「5108ベース」を開催

森之腰エリアで、店舗のご協力もいただき、子どもも大人も楽しめる企画を実践

■「5108ベース」の様様



「寄り道マルシェ」

湯沢商店街周辺のにぎわい創出を目的に、主催者と商店街が連携し、空き店舗や駐車場や公共スペースを活用した出店等によるイベントを開催しました。



「#しゅがミト」

20代の若手メンバーが御殿場駅周辺のまちなかに若者が集うきっかけをつくろうと、肉と砂糖に溺れる食のイベントを企画し、箱根乙女口広場で開催しました。



「ごてんばヒスピタリティプロジェクト」

御殿場市の歴史や文化資源を生かして、駅周辺を核とした保全活動、普及啓発、観光振興、市民の誇り・愛着の醸成を推進していく活動をしています。



「まちなかスポーツトライアル」

まちなかでスポーツと触れ合うことや普段関わらない競技について知ることができる仕組みについて検討・実践します。

■スケートボード体験会の開催 ■アームレスリング体験会の開催



企画中

「御殿場の魅力再発見プロジェクト」

御殿場の魅力を共有する場をつくることで、魅力を再発見すること及び関係交流人口の創出を目的とし、「御殿場大学」と称し、市外の方を集め、御殿場にまつわるモノ、コト、ヒトについて、〇〇学として学ぶことができるようなプログラムを検討しています。

「地域交流拠点づくりプロジェクト」

空き店舗や空き家を活用し、地域の人等が交流する拠点を造るうえで、どのような機能、仕掛け及び運営組織が必要かを検討しています。

(3) 地域交流拠点「きよてんば」の開設

令和6年9月、まちづくり活動における学び、交流、実践及び支援の場として、御殿場駅前(御殿場市新橋1988)に地域交流拠点「きよてんば」を開設しました。

開設にあたっては、御殿場100人ミライ会議等でまちづくりのための活動拠点を求める多くの声を受け、地域のためであればと、本施設の所有者である株式会社オサコーホールディングス様に本スペースの利用の快諾をいただき、これを契機に、連携・協力し、地域活性化を目指す「御殿場市における地域活性化に関するパートナーシップ協定」の締結に至りました。

今後、市民等まちづくりプレイヤーと一緒に「きよてんば」を活用した地域活性化に向けた取組(学生によるまちづくり活動等)を実施していくとともに、まちづくりプレイヤーが活発に活動できる環境づくりを推進していきます。

■令和6年9月17日 協定締結式



■活用例



専門家からイベントやテナント出店のノウハウを学ぶ「スモールスタート起業講座」の開催



御殿場高等学校の生徒による駅来街者へのおもてなしイベントの実施



子育て世代が駅前で滞在できるサービスの社会実験(ごてんばベース)の実施

4 駅周辺地域の課題

現況及び市民等の意向を把握するための調査、会議、社会実験等から、駅周辺地域に求められていること(課題)は次のとおりです。

① 来訪、滞在の目的地にすること

市民アンケート等から、まちに魅力がないと思っている一方、駅周辺地域において、買い物、食事、にぎわいのある場を市民等は求めており、魅力あるサービスを提供する場を積極的につくっていくことが求められます。

② 来街者を増やすこと

人の流れや活動が無ければ、そこでの商業や暮らしが持続的なものにならないため、駅周辺地域を利用する人(来街者)を増やすとともに、滞在時間を延ばして消費を促す取組が求められます。

③ 居心地良く滞在できる環境をつくること

市民アンケート等から景観の改善・美化や歩行環境の整備がニーズとして上げられており、安心して歩くことができ、居心地良く滞在できる環境づくりを進めていくことが求められます。

④ 新しい活動や出店、創業が生まれること

御殿場100人ミライ会議等を通じて、多様な人が駅周辺地域のまちづくり、ビジネス等に関心があることがわかり、まちづくりプレイヤーが積極的に新しい活動や出店、創業することができる仕組みづくりが求められます。

■箱根乙女口広場の活用 若者の集うイベント「#しゅがミト」



III

計画の全体像

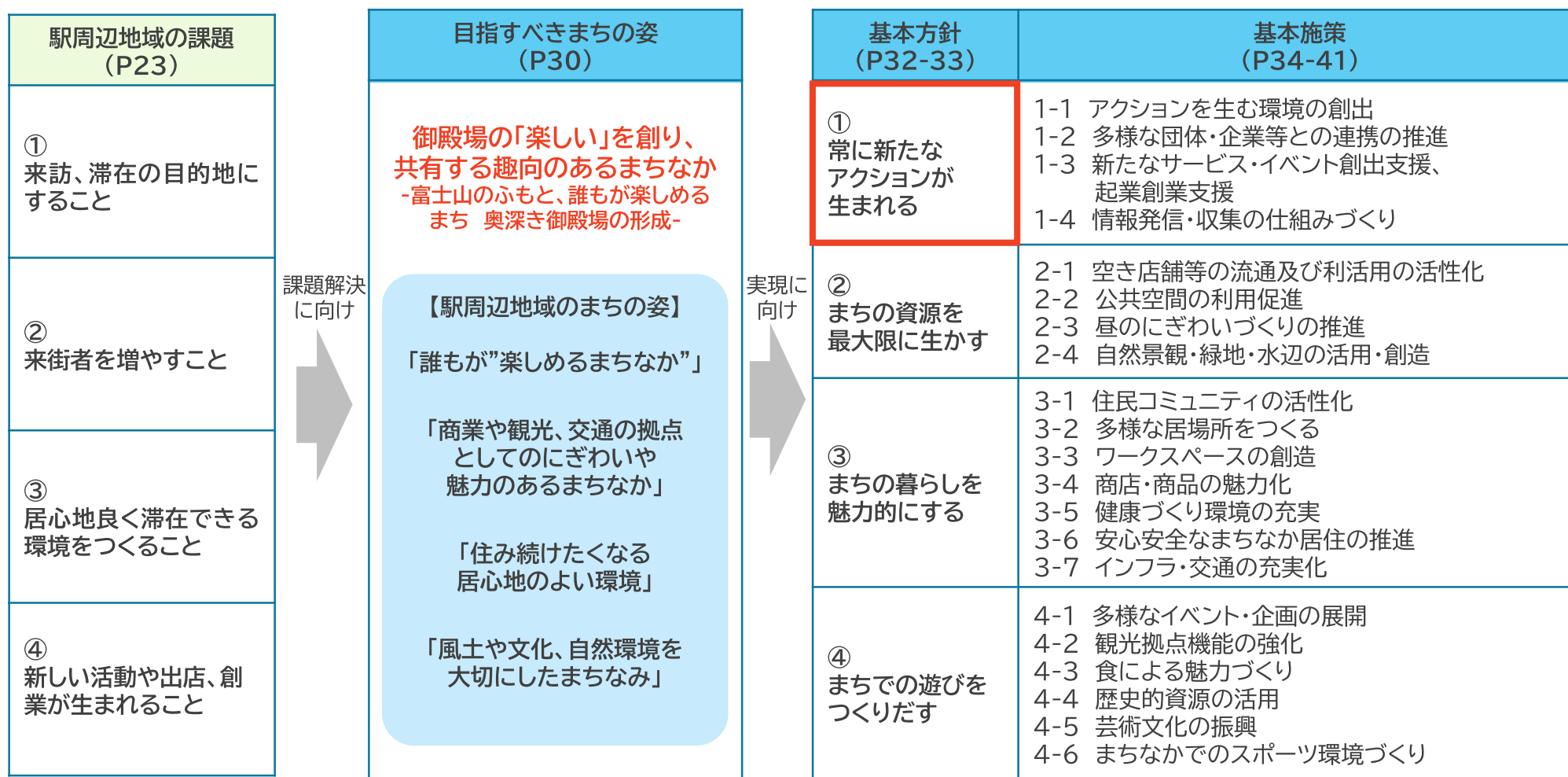
1 計画の体系

Ⅲ 計画の全体像

Ⅲでは、「目指すべきまちの姿」、「基本方針」、「基本施策」及び「エリア別方針」の体系を示します。

1 計画の体系

駅周辺地域の課題に応えつつ(課題解決)、より良いまちにしていく(価値創造)ため、「目指すべきまちの姿」を示します。この姿の実現に向け、「エリア別方針」を考慮しながら、「基本方針」に基づく「基本施策」に取り組んで参ります。



エリア別方針 (P42-45)		
エリア	ビジョン	取組の方向性
湯沢・萩原エリア	風情ある店舗が並び回遊して楽しめるエリア	新たな小中規模の店舗の出店を機に来街者が回遊して楽しめる居心地のよいまちの再生を目指します。
新橋浅間神社 エリア	多世代交流と文化が根付き地域愛を育む文化創造エリア	新橋浅間神社の歴史、自然環境及びまちなみ風情を大切にするとともに、祭りや文化活動の担い手をつくり、御殿場の魅力として発信することを目指します。
森之腰エリア	誰もが安心して巡ることのできる魅力的な商店街と暮らしエリア	多様な人達が利用・周遊しやすい環境と魅力を高めるための企画等の取組を支援し、買い物や憩いの場等の日常の居心地よい暮らしを守り、充実させていくことを目指します。
富士山口エリア	市内外から様々な人が集まり交流し、昼も夜も楽しい、御殿場の魅力に触れられるエリア	富士山を望む玄関口として、市内外からの交流が促し、商店から生活・まちづくりの拠点の充実を図り、多様な機能が集積させることを目指します。
箱根乙女口エリア	若者、来訪者等によるにぎわいを生み出すエリア	商業・観光・宿泊施設への送迎バス及び高速バスの発着点として、多くの来客を見込めるエリアとして、箱根乙女口広場や周辺の空き店舗の活用を促し、若者、来訪者等にとって魅力ある場を目指します。
駅東側エリア	老若男女誰もが過ごしやすく、御殿場ならではの感じられるちょうど良いエリア	御殿場インターチェンジが近く、車での市の玄関口として、御殿場ならではの魅力を磨き上げるとともに、居心地の良い市民等の買い物や食事の場を目指します。
新天地エリア	レトロな雰囲気を生かした、誰もが楽しみ、学べるエリア	新天地の歴史や景観を生かし、店舗・サービスの充実を図るとともに、日中は多様な世代が居場所として滞在できることを目指します。

■日中のにぎわい創出を目的とした駅前全開!!プロジェクトのイベント「5108ベース」



IV

計画の内容

- 1 目指すべきまちの姿
- 2 基本方針
- 3 基本施策
- 4 エリア別方針

IV 計画の内容

IVでは、Ⅲで示した「目指すべきまちの姿」や「基本方針」、「基本施策」及び「エリア別方針」の具体的な内容について示します。

1 目指すべきまちの姿

御殿場の「楽しい」を創り、共有する趣向のあるまちなか

-富士山のふもと、誰もが楽しめるまち 奥深き御殿場の形成-

まちづくりプレイヤーと市と一緒に策を検討し、学び、実現していく真の市民協働型のまちづくりを進め、住民、来街者等誰もが楽しめるまちなかになることを目指します。

誰もが“楽しめる”まちなか

まちづくりプレイヤーが御殿場駅前の広場、各商店街、歩行空間、空き地、空き店舗等を生かし、“楽しい”場をつくり、日常的に住民、来街者等誰もが“楽しめる”時間を共有できるまちなかを目指します。

商業や観光、交通の拠点としてのにぎわいや魅力のあるまちなか

市の交通の拠点として、まちなかを巡り、買い物や食事をしたくなるサービス機能の向上を図ります。

駅周辺地域のまちの姿

住み続けたいくなる居心地のよい環境

住民にとって、安心安全な地域として、居心地がよく住み続けたいくなる環境を目指します。

風土や文化、自然環境を大切にしたまちなみ

富士山の眺望、新橋浅間神社周辺の自然環境や風土及び商店街、新天地等の今に至る背景・まちの歴史、文化財を大切に、地域の意向に寄り添ったイベント、交流、店舗誘致、景観形成等を充実させます。

これからの駅周辺地域のまちの姿



2 基本方針

「目指すべきまちの姿」の実現に向けて、次の4つの基本方針に基づき、各種施策を展開します。基本方針1「常に新たなアクションが生まれる」を最も重要な方針として位置づけ、基本方針1の仕組みづくりを推進しながら、基本方針2～4の取組の充実化により、住み続けられるまちづくりを進めます。

基本方針1 常に新たな アクションが 生まれる

誰もがまちづくりに参画でき、主役になれるよう、まちづくりプレイヤーが仲間と「楽しく」活動できる環境づくりを推進します。

【目標指標】

- まちづくりプレイヤー数
令和6年度 10人 ⇒ 令和16年度100人
※地域交流拠点「きよてんば」の利用登録者数
- 新たなアクションの創出数(累計)
令和16年度までに100件



基本方針2 まちの資源を 最大限に生かす

空き店舗、空き家、空き地、公共空間等を地域資源とし、最大限に活用します。また、自然環境の保全、景観形成を推進します。

【目標指標】

- ストック活用創出数(累計)
令和16年度までに10件以上
※空き店舗等遊休施設の活用数



基本方針3 まちの暮らしを 魅力的にする

誰もが楽しめるよう“日常”空間における魅力を創り、居心地よく満足度があり、住み続けたいまちなかにしていくことで、日常利用や住まい環境の質の向上を目指します。

【目標指標】

- 駅周辺地域の居住人口
令和6年度6,003人 ⇒ 令和16年度 現状維持
- 駅周辺地域を魅力的と感じる市民の割合
令和6年度15.8% ⇒ 令和16年度 50%以上
※アンケートによる「強く魅力を感じる」「やや魅力を感じる」と回答した数の合計値



基本方針4 まちの遊びを 創りだす

誰もが楽しめるよう“非日常”空間における魅力を創り、目的地となるまちなかとして、多様なイベントの開催等により、活気のある「楽しい」環境づくりを目指します。

【目標指標】

- 「にぎわい」や「活気」を感じる人の割合
令和6年度34.3% ⇒ 令和16年度 50%以上
※御殿場駅利用者アンケートによる「にぎわい」や「活気」を感じる」と回答した割合
- JR御殿場駅乗車人員(1日平均利用者)
令和4年度4,019人 ⇒ 令和16年度現状値以上



3 基本施策

各基本方針における基本施策を示します。なお、取組例の概要については、別冊の資料編を参照ください。

【取組例の凡例】

■(新規)・・・本計画から新しく実施する取組 ■(継続)・・・前計画から継続して実施する取組 ■(再掲)・・・他の基本施策にも掲載のある取組
■(案)・・・御殿場100人ミライ会議等で寄せられた市民の意見を反映した取組案

基本方針1 常に新たなアクションが生まれる

基本施策1-1 アクションを生む環境の創出

「楽しい」まちなかにするためのアクションが生まれるきっかけとなる交流や情報交換の場をつくるとともに、まちづくりプレイヤーを発掘したり、若者を育成することで、まちづくりプレイヤーが地域と関わり、活発に活動できる環境となるよう支援します。

【取組例】

- ・御殿場100人ミライ会議(新規)
- ・地域交流拠点「きよてんば」運営事業(新規)
- ・中心市街地まちづくりコーディネート(新規)
- ・まちなか若者活躍推進事業(新規)



(取組例)多様な人、団体、企業等が集い御殿場駅周辺地域のまちづくりについて意見交換を実施「御殿場100人ミライ会議」

基本施策1-2 多様な団体・企業等との連携の推進

駅周辺地域を核に、御殿場市のまちづくりを応援する市内外の多様な団体、企業、教育機関との連携を推進します。

【取組例】

- ・御殿場100人ミライ会議(再掲)
- ・GOTEMBA MIRAI PROJECT(継続)
- ・御殿場市関係人口創出事業(案)
- ・まちなか企業誘致推進事業(案)
- ・市内団体・企業等のネットワーク強化事業(案)



(取組例)御殿場南高等学校と静岡大学の学生がコラボし、学習のアドバイス等交流会を実施「御殿場未来教室」

基本施策1-3 新たなサービス・イベント創出支援、起業創業支援

商店街等のイベント事業、販促サービス、起業創業の支援策の充実を図ります。

【取組例】

- ・にぎわい創出事業(継続)
- ・起業・創業・新規事業支援事業(案)
- ・個店育成事業(継続)

基本施策1-4 情報発信・収集の仕組みづくり

まちのファンやまちづくりプレイヤーを増やすため、観光やまちづくり情報の発信強化に努めます。また、来街者、企業等の意向を収集するため、情報収集やマーケティング機能の強化を進めます。

【取組例】

- ・観光情報発信事業(継続)
- ・フィルムコミッション事業(継続)
- ・マーケティング機能の強化(案)
- ・デジタルサイネージ設置事業(案)
- ・御殿場駅情報発信事業(継続)
- ・駅前お散歩マップの作成(案)



(取組例)イベントやテナント出店のノウハウを学ぶ講座「スモールスタート起業講座」



(取組例)地域交流拠点「きよてんば」にてモニターで駅周辺地域の企画やイベント等の情報発信を実施。夜人通りの多い駅前でのPRが可能。

基本方針2 まちの資源を最大限に生かす

基本施策2-1 空き店舗等の流通及び利活用の活性化

空き店舗、空き家、空き地等の対策として、空き家バンク制度等を活用し、所有者の意向に沿った取引方法の提案、利活用希望者とのマッチング等を繰り返し、空き店舗等の流通及び利活用の活性化を図ります。

【取組例】

- ・御殿場市空家等対策事業(継続)
- ・空き店舗活用事業(案)
- ・空き家バンク制度(継続)
- ・ごてんぱりノベーション推進事業(案)

基本施策2-2 公共空間の利用促進

JR御殿場駅前の広場、公園、空き地等多様な公共空間を継続的に使用するため、管理し、更には、設備、構造、利用方法等をまちづくり活動で利用し易いものに改善していくことで、公共空間における魅力を高め、利用促進を図ります。

【取組例】

- ・御殿場駅前広場管理事業(継続)
- ・無料Wi-Fi拡充事業(継続)
- ・御殿場駅前イルミネーション装飾事業(継続)
- ・利活用できる公共空間の情報提供やルールづくりへの取組(案)
- ・御殿場駅おもてなしミストシャワー事業(継続)
- ・駅前看板整備事業(継続)
- ・中心市街地貸ホール等利用支援事業(継続)

基本施策2-3 昼のにぎわいづくりの推進

既存の店舗の情報や魅力を発信し、来店してもらえるような取組を進め、他の施策と連携して、昼のにぎわいを担う店舗、イベント等を増やす支援をします。

【取組例】

- ・市民協働型まちづくり事業(継続)
- ・まちなか周遊促進事業(案)
- ・店舗誘客促進事業(案)



(取組例)店舗前の空きスペースを活用して店舗を出店。
「寄り道マルシェ」



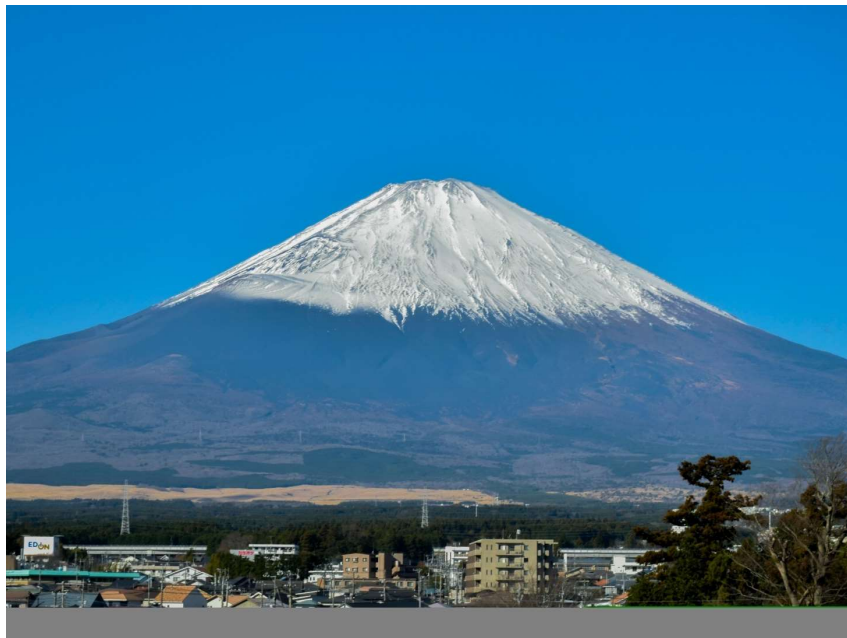
(取組例)日中のママや子どもが駅周辺地域を巡って楽しむ
「ごてんぱベース」

基本施策2-4 自然景観・緑・水辺の活用・創造

富士山の麓の立地を強みに、緑やまちなかに流れる川や水資源を大事にし、自然の価値を生かしたまちづくりを推進します。居心地の良いまちなかにするため、富士山の景観や自然を感じられる緑ある空間づくりを推進します。

【取組例】

- ・生け垣設置奨励金交付事業(継続)
- ・総合景観条例の順守(継続)
- ・富士山ビューポイント整備(案)
- ・家庭用地域脱炭素移行促進等導入支援事業補助金(継続)
- ・市民協働型まちづくり事業(再掲)



駅周辺地域から見える富士山



緑や水辺を感じられる浅間神社

基本方針3 まちの暮らしを魅力的にする

基本施策3-1 住民コミュニティの活性化

住民の充実した暮らしを持続していくために、日頃抱えている困りごとや課題に対して相談でき、解決へと進められる仕組みづくり(御殿場100人ミライ会議等)を推進します。

【取組例】

- ・高齢者見守りネットワーク事業(継続)
- ・高齢者等声かけごみ収集支援事業(継続)
- ・御殿場100人ミライ会議(再掲)



(取組例)定期的な市民・住民がまちなかについて話し合う場づくり
「御殿場100人ミライ会議」

基本施策3-2 多様な居場所をつくる

住環境は住む場所を確保するだけでなく、誰もが暮らしやすい環境を実現していくことが大切なことから、子どもから高齢者まで多様な居場所づくりを推進します。

【取組例】

- ・複合施設活用事業(継続)
- ・移住・就業支援事業費補助事業(継続)
- ・地域交流拠点「きよてんば」運営事業(再掲)
- ・市民協働型まちづくり事業(再掲)
- ・まちなか居場所づくり推進事業(案)



(取組例)みんなで拠点をつくる取組
「きよてんばの壁塗り活動」

基本施策3-3 ワークスペースの創造

ワーケーション等、首都圏等から仕事で来られる方が居心地よく滞在しやすい場づくりを推進します。

【取組例】

- ・ワーケーションの推進事業(継続)
- ・空き店舗活用事業(再掲)
- ・サテライトオフィス設置補助金(案)

基本施策3-4 商店・商品の魅力化

店舗又は商品を磨き上げることで、新たな顧客を呼び込み、販路開拓に繋がるような事業を推進します。

【取組例】

- ・商店会組織育成事業費補助事業(継続)
- ・地域ブランド商品普及促進事業(継続)
- ・御殿場市土産品販路拡大支援事業(案)

基本施策3-5 健康づくり環境の充実

住民が健康に暮らせるよう、まちなかの立地特性に応じた健康づくりの支援体制等の充実化を進めます。

【取組例】

- ・健康出張相談事業(継続)
- ・健康マイレージ事業(継続)
- ・まちなかうォーキング推進事業(案)

基本施策3-6 安心安全なまちなか居住の推進

安全な暮らしを守るために、防犯カメラ、防犯灯設置支援等を推進します。また、空き家等の対策を推進により、安全安心な居住環境を確保し、住み続けたいまちを目指します。

【取組例】

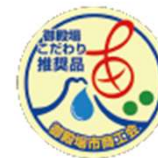
- ・防犯カメラ設置費用補助事業(継続)
- ・防犯灯設置費用補助事業(継続)
- ・地域防犯活動支援事業費補助事業(継続)
- ・御殿場市空き家等対策事業(継続)
- ・ごてんぱりノベーション推進事業(案)

基本施策3-7 インフラ・交通の充実化

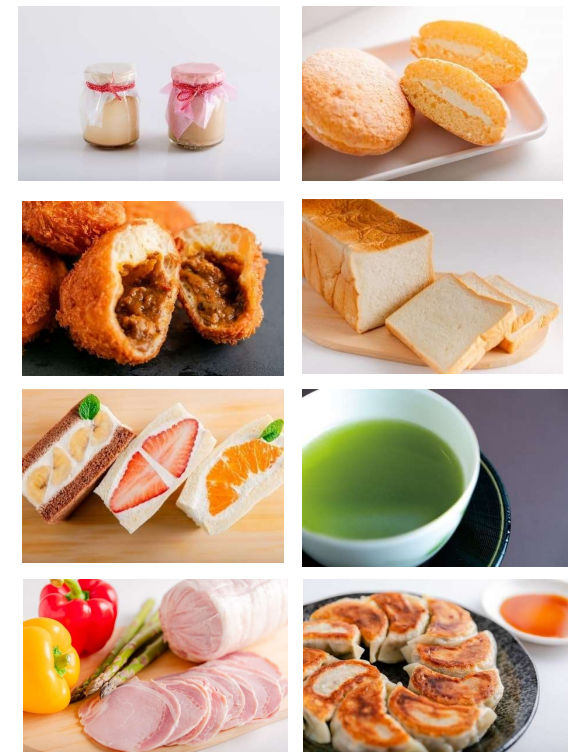
より良い道路・交通環境を実現するため、市民の意向や社会環境の変化に対応した道路整備、自転車利用環境の改善及び公共交通利用の促進を図ります。

【取組例】

- ・まちなか道路整備事業(継続)
- ・自転車等駐車場事業(継続)
- ・御殿場駅東西自由通路改修事業(継続)
- ・サイクルステーション整備事業(継続)
- ・バリアフリー事業(継続)
- ・放置禁止区域内放置自転車撤去事業(継続)
- ・レンタサイクル事業(継続)
- ・高齢者等タクシー及びバス利用料金助成事業(継続)



御殿場
★★★
こだわり推奨品



地域産業に根差した商品としてアピールする商品
「御殿場こだわり推奨品」

基本方針4 まちで遊びをつくりだす

基本施策4-1 多様なイベント・企画の展開

まちなかのにぎわいと新たな利用者を増やすため、多様なイベント、企画の実施に対し、積極的に支援します。基本方針1の施策と連携を図りながら取組を推進します。

【取組例】

- ・アピール・ナウ御殿場(経済活力創出)事業(継続) ・御殿場夏祭り歩行者天国事業(継続)
- ・御殿場市商工会御殿場地区支部、原里地区支部活動事業(継続)
- ・市民協働型まちづくり事業(再掲)

基本施策4-2 観光拠点機能の強化

交通結節点となるJR御殿場駅において、観光客のまちなかの滞在における満足度が高まるよう情報発信やおもてなしのサービスによる充実化を図ります。

【取組例】

- ・ごてんば観光案内所(ゴテンバ・プレミアムアウトレット内)運営事業(継続)
- ・観光案内所による観光情報発信事業(継続) ・観光客の荷物配送事業(継続)
- ・観光情報発信機能の多拠点化推進事業(案)

基本施策4-3 食による魅力づくり

富士山のふもとの恵みに育てられた豊かな食、食文化に係る駅周辺地域でのサービスや体験の高付加価値化を支援し、広報等の普及促進に努めます。

【取組例】

- ・地産地消推進事業(継続)
- ・市民協働型まちづくり事業(再掲)
- ・地域ブランド商品普及促進事業(再掲)
- ・起業・創業・新規事業支援事業(再掲)



(取組例) 駅富士山口前広場にて食や商品、音楽を楽しむ夜市の開催「GOOD NIGHT」



(取組例) 御殿場西高等学校によるきよてんばでの出店・来街者へのおもてなしの実践

基本施策4-4 歴史的資源の活用

御殿場の歴史を通じてまちを認知し、ファンになってもらえるよう、体験の商品化、プロモーション等歴史的資源の保全及び新たな活用を推進します。

【取組例】

- ・御殿場わらじ祭り事業(継続)
- ・SL広場整備事業(継続)
- ・市民協働型まちづくり事業(再掲)
- ・御殿場デジタル資料館の充実化(案)
- ・歴史文化遺産を活用したPR及び担い手創出事業(案)

基本施策4-5 芸術文化の振興

富士山のふもとという立地の中、御殿場駅周辺地域に芸術家が訪れる機会が増えている中で、芸術文化活動を活発化させるための支援をします。

【取組例】

- ・市民協働型まちづくり事業(再掲)
- ・アーティスト活動支援事業(案)
- ・まちなか芸術文化活動の推進事業(案)

基本施策4-6 まちなかでのスポーツ環境づくり

「スポーツタウン御殿場」の取組・事業との連携を図りながら、まちなかにおいてもスポーツのまちを感じられる場づくりを推進します。

【取組例】

- ・スポーツタウン御殿場推進協議会(継続)
- ・市民協働型まちづくり事業(再掲)
- ・まちなかスポーツトライアル推進事業(案)



(取組例) 武将や落ち武者の歴史が深いことを機に落ち武者の仮装で行列するイベントを開催「ヒスピタリティプロジェクト」



(実施例) 御殿場駅富士山広場でのスケートボード体験会「御殿場ラプソディ」

4 エリア別方針

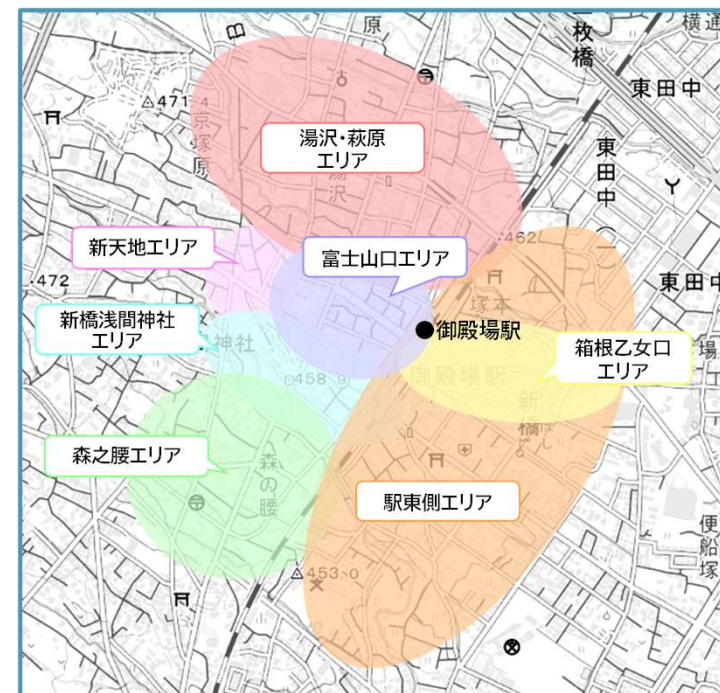
駅周辺地域は、これまでの歴史の中で築かれてきたまちなみやコミュニティにより、各エリアで特性が異なります。本節では、これからの駅周辺地域のまちの姿の実現に向けて、各エリアの特性を活かしたまちづくりの方向性を示します。

今後、この方向性を踏まえ、住民等の意向を伺いながら、柔軟にまちづくり活動を展開して参ります。

(1) エリアの設定

本計画では、右図の通り、当該エリアを7つ設定(厳密な区域設定なし)します。

(2) 各エリアのまちづくりの方向性



地図出典: 電子地形図2024年10月(国土地理院)

湯沢・萩原エリア



風情ある店舗が並び回遊して楽しめるエリア

新たな小中規模の店舗の出店を機に来街者が回遊して楽しめる居心地のよいまちの再生を目指します。

【市民の意見・アイデア(抜粋)】※御殿場100人ミライ会議の参加者からの提案

- 空き店舗活用の推進
- 駐車場の確保
- バス停や歩道のベンチの設置
- 着物着付け体験、着物を着て歩ける周遊コンテンツ
- 市立図書館の利活用
- 富士山フォトスポットの追加
- 夜間の明かりによる景観美化

新橋浅間神社エリア

子どもの参加・担い手づくり



新橋浅間神社の魅力を活かす

多世代交流と文化が根付き地域愛を育む文化創造エリア

新橋浅間神社の歴史とまちなみ風情を大切にするとともに、祭りや文化活動の担い手をつくり、御殿場に魅力として発信できる文化的なエリアとして推進します。

【市民の意見・アイデア(抜粋)】

- バリアフリーや無電柱化等の歩道空間の質の向上
- 学生が集まり学生主体で企画できる環境づくり
- 朝市の開催、新橋せせらぎ公園の清掃
- 御殿場ならではの和の文化体験づくり
- 子どもが積極的に参加できるイベント
- 年中行事への参加・ボランティアの受入強化

森之腰エリア

歩行空間の充実化



楽しく買い物・周遊する
魅力づくり

子どもも高齢者も安心して巡ることのできる 魅力的な商店街と暮らしエリア

多様な人達が利用・周遊しやすい環境と魅力を高めるための企画等の取組を支援し、買い物や憩いの場等の日常の居心地よい暮らしを守り充実させていきます。

【市民の意見・アイデア(抜粋)】

- 周遊イベント企画(グルメまつり、歩行者天国等)
- エピ・スクエアでの定期的なイベント開催
- チャレンジショップの創設
- 周遊して楽しめるマップ(デジタル)づくり
- 街灯や防犯カメラの設置
- ベビーカーを押して歩ける歩行空間の整備

富士山口エリア

駅前広場のにぎわいづくり



交流スペースの設置

交通機関の充実化

市内外から様々な人が集まり交流し、 御殿場の魅力にも触れられる昼も夜も楽しいエリア

御殿場インターチェンジが近く、御殿場市の玄関口として、商店から生活・まちづくりの拠点の充実を図り、多様な機能が集積し、市内外からの交流を促します。

【市民の意見・アイデア(抜粋)】

- 駅周辺から富士山が見える場所フォトマップづくり
- 空き店舗の活用
- 散策マップの充実化
- 日中等日常生活で利用できる場所の創出
- 交流できるスペースの設置
- 駅前から市内各所への接続強化

箱根乙女口エリア

若者や来街者が楽しめる場づくり



広場の積極的な活用

若者や来訪者等によるにぎわい・明るさを生み出すエリア

交通結節点の強みを生かして、箱根乙女口広場や周辺の空き店舗の活用を促し、若者、来街者等にとって魅力あるまちにします。

【市民の意見・アイデア(抜粋)】

- 箱根乙女口の歩道や駅前広場を活用したイベント推進
- 若者向けの店舗・場所づくり
- 高校生による学園祭やフェスの開催
- 街灯、ネオンの設置(街の明るさ)
- お酒のイベント(ウィスキーブレンド体験等)
- ストリートピアノの設置

駅東側エリア

周遊して楽しめる場づくり



市民にとって買い物や食事等利用しやすいエリアへ

老若男女誰もが過ごしやすい、御殿場ならではの 感じられるちょうど良いエリア

車で市の玄関口として、御殿場ならではの魅力を磨き上げるとともに、市民等の買い物や食事の滞在する場として、居心地よい環境づくりを推進します。

【市民の意見・アイデア(抜粋)】

- 地域憩いの場となる交流の場づくり
- 交通渋滞の改善
- 周遊できる仕組みづくり
- ファミリーで利用しやすい店舗誘致
- 気軽に入れ、滞在できる場(カフェ等)の創出 等

新天地エリア

店舗・サービスの充実化



※日中も楽しみ交流できる機会の創出

レトロな雰囲気を生かした、子どもも大人も楽しみ学べるエリア

新天地の歴史や景観を生かしつつ、店舗・サービスの充実を図るとともに、日中は多様な世代が居場所として滞在できる環境づくりを推進します。

【市民の意見・アイデア(抜粋)】

- 空き店舗活用の推進
- 夜のにぎわいあるお店の継続・充実化
- 日中も地域の子供、大人が集まれる場づくり
- 外から人を呼び込めるソフトの仕掛け、イベント等の実施の推進
- 歩きやすく、歩いて楽しい道づくり

■湯沢商店街のにぎわい創出を目的としたイベント「寄り道マルシェ」



■D52型蒸気機関車が展示されている「ポップ広場」





計画の推進

- 1 まちづくりの基本姿勢
- 2 推進体制
- 3 進捗管理
- 4 今後の展開

V 計画の推進

Vでは、計画を進めていくための「まちづくりの基本姿勢」、「体制」、「進捗管理」の仕組み及び「今後の展開」について示します。

1 まちづくりの基本姿勢

駅周辺地域のまちづくりに関わる人は、次の4つの基本姿勢(心構え)で、まちづくり活動を実施していきます。

1 みんなの声を聞く

- ・ひとりひとりの駅周辺地域への想いや期待を聞き、将来に向かってまちづくり活動に取り組む。
- ・少数意見でもないがしろせず、できる限り多様な人の声を聞く。



2 実現できる環境をつくる

- ・まちづくりプレイヤーがまちなかでやりたいことを実現できる環境をつくる。
- ・まちづくりプレイヤーの取組が新たな価値として、まちの魅力となる。



3 新しい価値を取り入れる

- ・積極的に良いヒト、モノ、コト及び情報を取り入れる。
- ・積極的に新しい技術を活用する。
- ・新しい価値を現在の環境に馴染ませる。



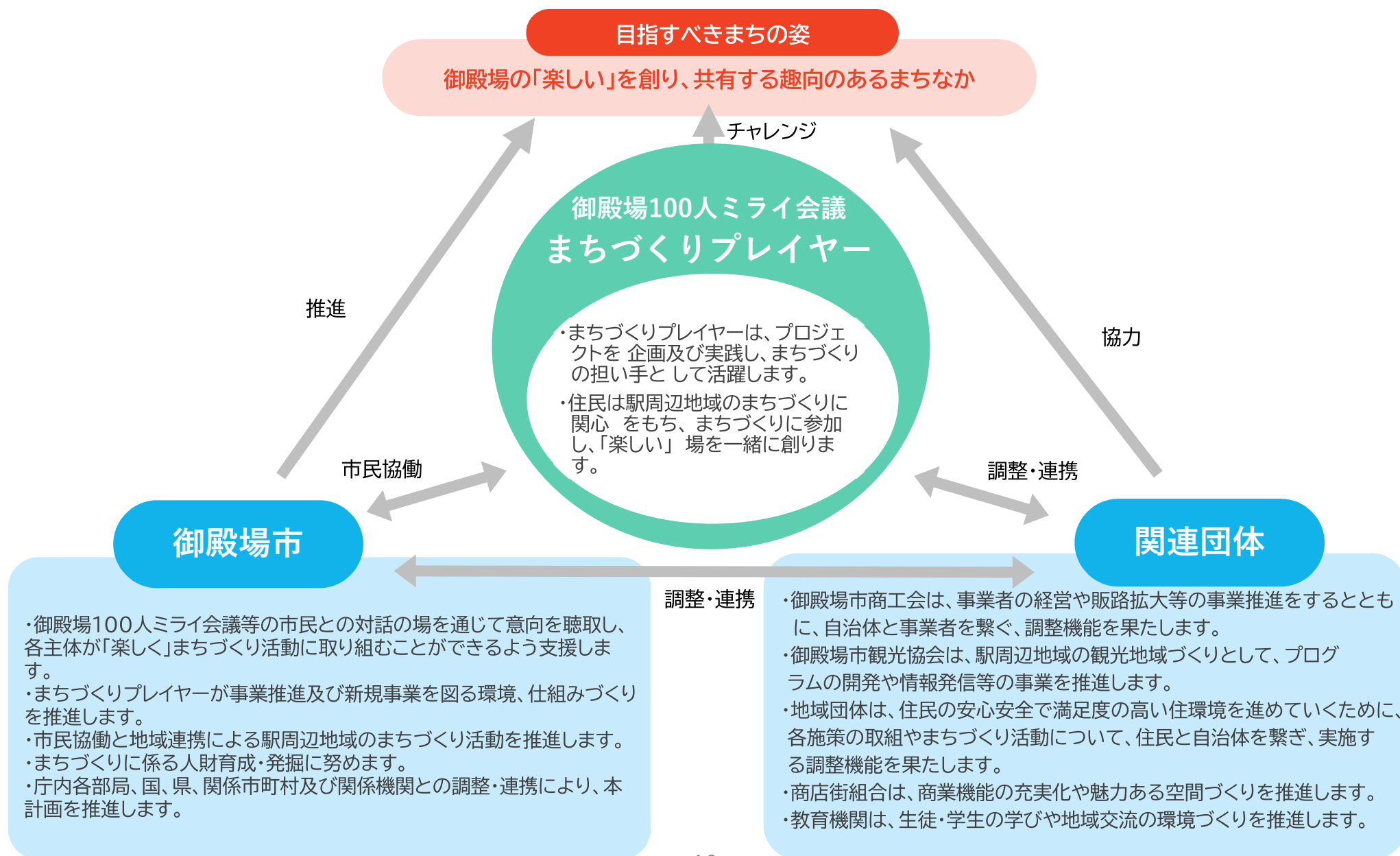
4 コミュニティ、文化、風土を大切にする

- ・先人から受け継いできたコミュニティ、文化及びこれまで進めてきた取組をまちの魅力として、大切にする。
- ・富士山のふもとという自然環境や景観、風景を大切にする。



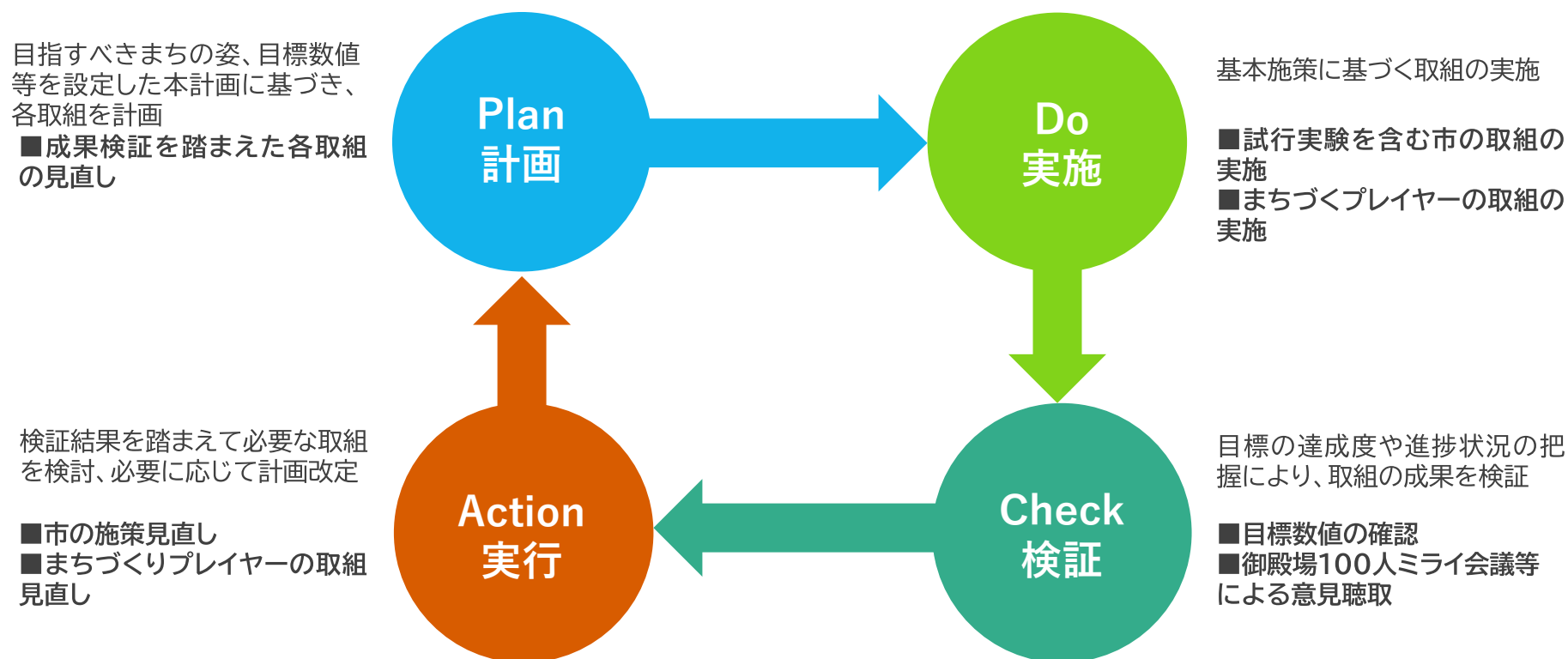
2 推進体制

市、市民、団体、事業者等が目指すべきまちの姿を共有し、市民協働と地域連携による協力体制の構築を図り、取組を推進して参ります。



3 進捗管理

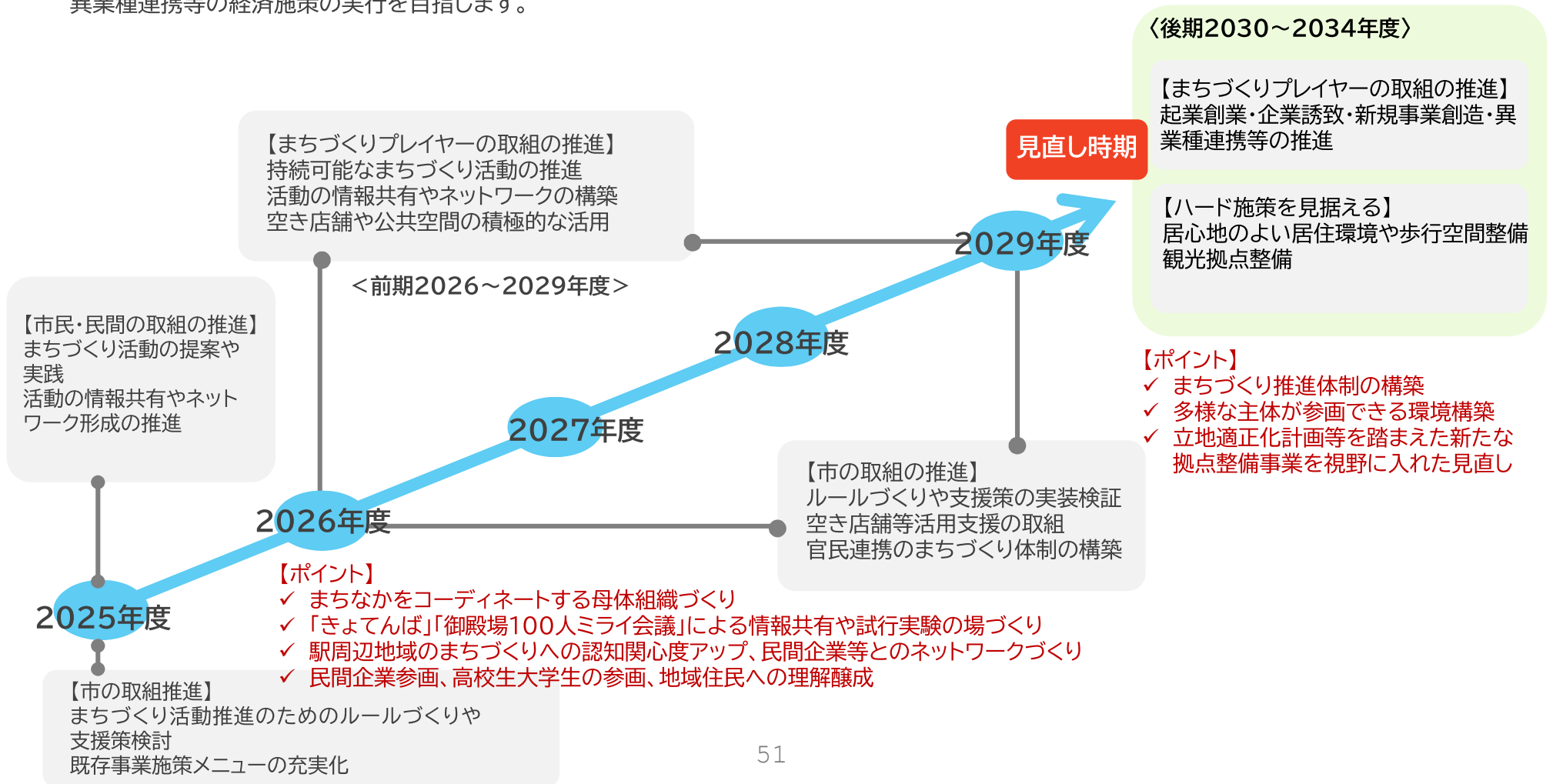
次図に掲げるPDCAサイクルにより、各取組が目指すべきまちの姿に向かっているのか及び進捗状況の検証について、御殿場100人ミライ会議等を毎年開催することで、市、まちづくりプレイヤー、住民等と一緒に確認をしていきます。また、日頃より市、まちづくりプレイヤー、住民等との対話を大切にし、本計画に基づく取組を推進していきます。



4 今後の展開

計画推進にあたり、目指すべきまちの姿の実現に向けて、まちづくりプレイヤーが積極的にまちづくり活動を実施するためのまちづくり活動の試行実験の場及び情報共有の場づくりを推進し、交流を促すとともに、各主体が活動しやすいよう、まちづくり活動のルールづくり、支援策の仕組みづくりを進めていきます。

前期5年では、ヒト(人財)への充実した支援の仕組みを構築しながら、まちづくりの推進体制の構築を目指し、後期5年において、前期の施策や取組をより効果的に進めていくための駅周辺地域における拠点整備、住環境整備等のハード施策及び起業創業、企業誘致、新規事業創造、異業種連携等の経済施策の実行を目指します。





誰もが御殿場の「楽しい」を創れるまちなか形成への実践へ

御殿場駅周辺地域まちづくりビジョン

令和7年3月
御殿場市

QR
コード